

リつめい

題字・末川 博名誉総長

R Alumni

立命館大学校友会

立命館大学校友会報

NO.
253

2013
JULY

特集Ⅱ

特集Ⅰ

立命館が結んだ赤い糸

「母校でつながった校友カップル」

校友会未来人財育成基金

「校友による新たな「後輩・母校支援」の形」

Brilliance

輝くひと

85

世代間コミュニケーションの結晶で
お茶の間とコミュニケーション
振付稼業 air:man
杉谷一隆さん(94歳)



03 特集Ⅰ

立命館が結んだ 赤い糸

～母校でつながった校友カップル～



SPECIAL

06 特集Ⅱ

校友会未来人財育成基金

～校友による新たな「後輩・母校支援」の形～

01 輝くひと

杉谷一隆 さん

08 RITSUMEI INTERVIEW

株式会社 FUK 市場開発部統括課長
原 浩司 さん



08

12 震災関連記事

NPO 法人 ネットショップ『福島屋商店』事務局長 馬場幸蔵 さん
立命館大学校友会 2013年度東日本大震災復興支援事業計画

14 海の向こうの立命人

Yayoi Japan Coaching 代表 MÖLLER 越智 CAROLINE やよい さん

15 2013年度校友会幹事会報告

16 校友NEWS

校友会奨学金授与式が開催されました

18 校友会ネットワーク

19 校友会・グループインフォメーション

20 「オール立命館校友大会2013in 京都」のご案内

22 立命館の研究者たち

情報理工学部 西浦敬信 准教授

24 学生イベント&スポーツ

26 キャンパストピックス

29 +R な人

板庇雄馬 さん

30 INFORMATION

31 編集室から



24



29

｜ 輝くひと ｜

振付稼業 air:man

すぎたに かずたか
杉谷 一隆 さん

('94 経済)



世代間コミュニケーションの結晶で お茶の間とコミュニケート

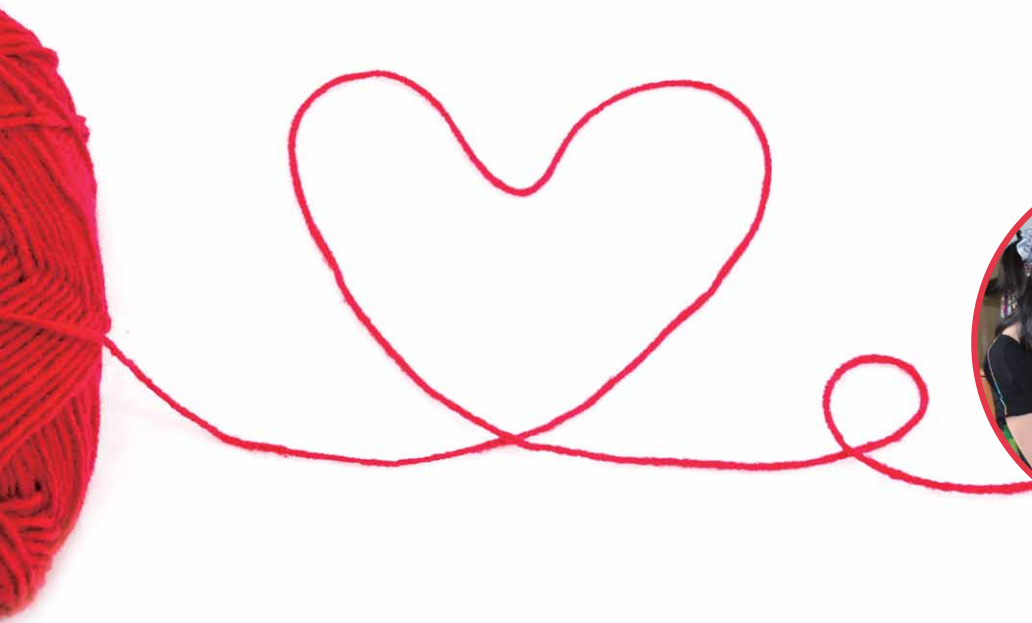
「カワイイ」文化のアイコン的存在として世界が熱狂する歌手・きやりーぱみゅぱみゅの「PON PON PON」、見る人に強烈な印象を残すキンチョーのCM「虫コナーズ」、そして2008年にカンヌ国際広告祭など世界三大広告賞すべてを受賞したユニクロのwebCM「UNIQLOCK」。これらの振付を手がけたのは、振付師ユニット「振付稼業air:man」。これまでに数え切れない作品を世に送ってきたこのユニットを立ち上げたのが杉谷一隆さんだ。

学生時代に芝居に目覚め、卒業後、前身となる演劇集団を始動。舞台環境に応じてダンスを豊富にした内容が好評を博すように。そんな時、振付師のアシスタントとして当時すでに活躍していた現メンバーの一人が駆け込んできた。「振付師がもっと職業として確立出来ないのか?」。切実な彼女の思いと、新たな変化を求めている杉谷さんの価値観がつながり「振付師を集団化する事により職業として成立する可能性はあるのか? 僕らで試してみよう」と、振付稼業air:manを結成した。「タレントでもダンサーでもない、踊る人ではなく踊らせる人。兼ねる職業ではなく、振付師を生業とする」。強い思いを「振付稼業」の言葉に込めた。

個人が一般的な振付師の世界で、10代から40代まで多世代が集まるユニットは異色。振付を考える時に身体は使わない。一つのテーマに対して世代間で異なるイメージを徹底的に話し合う。それは、さながら多世代が集う「お茶の間」のシミュレーション。「動きの面白さを踊る側に納得してもらうには必ず言葉が要る。だから動く前に頭で突き詰める」。コミュニケーションを積み上げて共通の言葉を持ったメンバーは、同じクオリティーの仕事を行うことができる。つい真似したくなるような、心を捉えて離さない動きの数々は、緻密な作業から生み出されている。

小・中学校でのダンス必須科目化にあたり、近年は教育分野からの期待も集まる。世間の熱い視線とは裏腹に、真摯に、ひたむきに仕事を重ねる「振付の匠」は、今からが見どころだ。

(写真・小幡豊 文・平松万知)



特集 I

立命館が結んだ赤い糸 ～母校でつながった校友カップル～

ビジネスを通じた連携や、プライベートでの大切な友人関係。

「母校が同じ」という共通点をきっかけに、

校友と校友の間には様々な

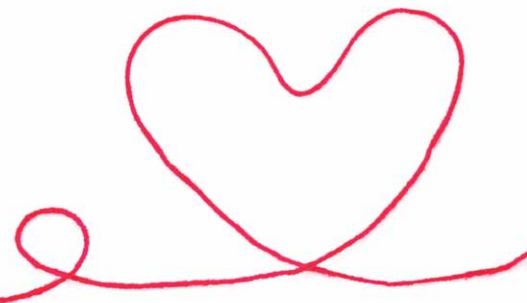
「出会い」・「つながり」が生まれています。

特集では、校友たちの多様な出会いの中でも、

人生のパートナー＝結婚という形に至った

校友のご夫妻にお話を伺い、

強い絆で結ばれた校友の姿をお伝えします。



「立命館」がつなぐ **出会い** に支えられて

うめもと あきら
梅本 陽さん（'07理工）トヨタ自動車（株）第2ボデー設計部 リコネクト東海スタッフ
みやがわ ともこ
宮川（梅本）友子さん（'05法）（株）ココカラオフィス アシスタントマネージャー、校友会本部総務委員、リコネクト東海スタッフ ご夫妻



今年初節句を迎えた長男・健太郎君と

●**宮川さん** 社会人3年目の時に愛知県校友会の新人歓迎会に参加して、たまたま隣り合わせに座った相手が新人校友の夫でした。当日遅刻してしまって、決められていた席とは別の席に座ることになったんです。

●**梅本さん** 当時、私は工場実習期間で、歓迎会に参加するために、その日一日だけ名古屋へ来ていました。せっかく来たのだから、同僚よりも知らない人と話してみようと思って、隣に座っていた妻と話をしたんです。その時はおもしろい人だなあと思っていました。

●**宮川さん** もし当日私が遅刻していなかったら彼と隣合わせに座ることもなく、そんなに話すことはなかったかもしれない。実はその日、夫は別件にも誘われていて、少し迷った結果、歓迎会に参加したというから、すごい偶然の重なりだなと思います。校友会がなかったら私たちは出会っていなかったかもしれないですね（笑）。

●**宮川さん** 私が校友会に関わるようになったのは、卒業後地元に戻り、仕事だけではない人の輪を広げたいと思っていた時にその存在を知って参加してみたのがきっかけでした。そこ

で出会った先輩方が素晴らしくて、仕事の悩みの相談に乗ってもらったり、迷っている時には引っ張ってもらったり。それは今も変わらず、実家から離れて子育てをしている私を気遣って子育て経験のある先輩が事あるごとに助けてくださる。とてもありがたいと思っています。最近では、校友の先輩のご縁で、産後半年で社会復帰するという幸運にも恵まれました。

●**梅本さん** 校友のつながりには本当に支えられています。私たちは、入籍した頃から若手校友を中心としたリコネクトの活動にも夫婦関わってきました。結婚式の二次会はリコネクトのスタッフがみんなで進めてくれたんですよ。

●**宮川さん** 校友会での出会いはすべて実となっています。社会に出てからも利害関係なく、素直に付き合えるつながりが持てる、とても貴重な場です。

●**梅本さん** 立命館の自由な校風のおかげで、私は中学・高校そして大学まで、のびのびと学生生活を送ることができました。立命館で得たものは人との縁。社会に出て改めて思うようになりました。職場にも『立豊会』という校友会がありますが、そんな大学は他にあまりないようで、周りの仲間がうらやましがられています。いい学校だったんだと思います。

●**宮川さん** 立命館で学生時代を過ごせて良かったと思うのは、「出会い」の数、その種類の多さ。在学中も卒業後も、たくさんの人に出会うことができました。立命館に来なければ出会えなかった、大切な友人、尊敬できる先輩、そしてわたしたち夫婦。立命館を軸につなげた出会いに感謝しています。



校友の仲間たちの祝福に包まれた結婚式

校友会は我が家の **家族** イベント

いまなかともゆき
今中智幸さん（'94法）大和ハウス工業（株）東京法務室室長、校友会復興支援特別委員、東京校友会副幹事長、法学部同窓会幹事
（旧姓 中村）さち子さん（'94文）某法律事務所 総務・経理 ご夫妻

●**智幸さん** 出会いは学生時代の観光ガイドサークルの活動。4年間の交際の後、就職による遠距離恋愛を経て、卒業から3年後に結婚しました。

●**幸子さん** 元々、私は他大学の学生だったのですが、夫に英語の勉強を教わったりしながら立命館の編入試験にチャレンジして、3回生から同じキャンパスで学生生活を過ごしました。

●**智幸さん** 校友会との関わりについて言うと、私の職場はOBが比較的多いこともあり、転勤に伴って東京や大阪の校友会のサポートに積極的に携わってきました。社内の東京校友会を立ち上げたり、出身学部同窓会のお手伝いをしたり、様々な会で活動していくうちに自然と夫婦で参加するようになりました。

●**幸子さん** 新人校友の歓迎イベントや総会、校友大会など、いろんな場に夫婦で参加し、娘が生まれてからは家族で参加しています。

●**智幸さん** 校友会は我が家の共通の話題であり、交流を深めるきっかけの一つ。校友会関連のイベントがあれば、できるだけ家族で参加し、今では旅行も兼ねた家族イベントのようになっています。いろんな所に行けるので、娘も校友会のイベントを楽しみにしているようです。

●**幸子さん** 最初は子供を連れて参加するのはどうかと心配していたのですが、みなさんが温かく受け入れてくださるので本当に楽しく参加しています。「卒業してからも、仕事や年齢問わずに交流できるイベントがそんなにたくさんあるのってすごいね」と、他大学出身の友達にもよく言われます。

●**智幸さん** 私たちにとって、「立命館」というのはごく日常的なもの。テレビや新聞、雑誌などで「立命館」の文字が出ると、とにかく家族そろって反応しています（笑）。

●**幸子さん** 立命館での学生生活を思い返すと、趣味にも勉強にも一生懸命で、忙しかったけど、密度の濃い時間を過ごしていました。

●**智幸さん** 物事の筋を通してしまうという自分の性格は立命

館時代に培われたと思います。立命館は昔から自主性を尊重する校風で、卒業後に出会ってきた校友の方々にも、物事をはっきりと言う傾向が見

られる。けれど最近の立命館の学生は少し線が細くなってきている気がします。これまでは『「りっちゃん」は言うべきときには言う』というキャラクターで通っていたので、ちょっと残念かな・・・。

●**幸子さん** 立命館で過ごした時間を通して、私も行動力のある人間になれたと思います。校友の方々を見ても行動力のある方が多いと感じるのですが、そんな「行動力」が、立命館の特徴としてこれからも受け継がれればと期待しています。

●**智幸さん** もし京都に来なかったら、立命館でなかったら、どんな人生になっていたのかも分からないし、妻とも出会っていなかったのかもしれない。そう思うと、やはり立命館で良かったなと思いますね。



学生時代に二人でよく利用した「ぞんちか」食堂で



長女・咲幸（さゆき）ちゃん（小3）と、学生時代を過ごした衣笠キャンパスで

校友会未来人財育成基金

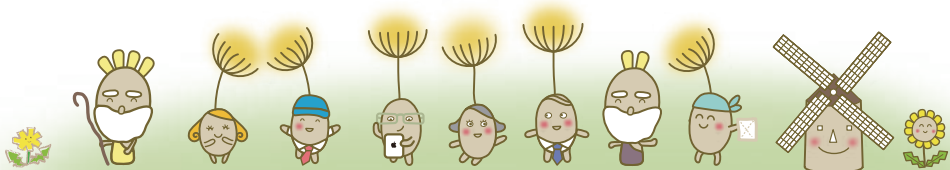
～校友による新たな「後輩・母校支援」の形～

立命館大学校友会は、母校に学ぶ後輩を支える最大のサポーター組織であり続けるために、恒常的に息の長い支援を続けることのできるサイクルを生み出したいと考えました。校友の支援で後輩が育ち、後輩の成長が母校を発展させる。その具体化として「校友会未来人財育成基金（以下、基金）」の創設を大学に申し入れ、感謝の意をもって了承されました。基金への支援は立命館大学への寄付となります。立命館大学校友会は、後輩・母校支援のため立命館大学とともに「基金」の募集推進を行なっています。

昨年10月から始まったこの基金の理念の共感者の拡がりにより、2013年5月30日時点で、711件10,001,445円のご支援をいただいております。

前回の会報「リつめい」の特集では、基金の活用方法やお申込みに関する詳細についてお伝えしましたが、今回はこれまで基金にご支援いただいた方々のお声を紹介することで、支援活動の広がり的一端を感じていただければと思います。

校友一人ひとりが主人公となり、「立命館の未来を創る」活動に、あなたもぜひご参加ください！



支援者の声 Supporter's Voice

堀部友美さん（'02経営）

知的探究心を満たした立命館での日々

地元の大学の短期大学部を卒業した後、周囲からは就職することを勧められていましたが、更に学びたいという思いが強く、立命館大学に編入しました。片道2時間半かけて通学しており、その通学費は自分のアルバイト代から出していました。朝4時半に起きて家に帰るのは10時ということもありましたが、知的探究心を満たしてくれる大学での学びは楽しく、大変だと思ったことはありません。授業の他に社会人経験者も含めた同じゼミ生との交流、灰谷健次郎さんを招いての講演会の実施等を行ないましたが、いずれも素敵な思い出や経験となっています。

「基金」への支援のきっかけ

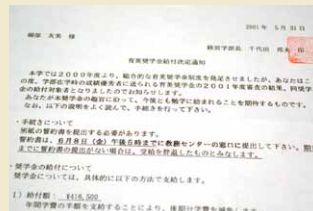
東日本大震災以降、社会や団体への支援に興味を持つようになりました。その中で、前回の会報に「基金」の振込用紙が入っているのを見て、その理念に共感し、今回支援しました。

私自身、学生時代に「西園寺育英奨学金」（成績優秀者に対して給付され、返還義務のない奨学金）の給付を受けました。自身で望んで入学したため、成績は高い水準で維持するように心がけていましたが、給付を受けた際に、ひたむきに努力を続けてい

れば、いつか実を結ぶことを強く実感し、心から嬉しく思ったことを覚えています。今回の支援はその分の母校への恩返しという意味も含んでいます。

後輩の支援のために

校友の支援で後輩が育ち、後輩の成長が母校を発展させるという広く・長い「支援のサイクル」を生み出す理念に共感しています。現在も多くの学生が奨学金の給付を受けていると聞きます。学生時代に支援を受けた校友が、後輩・母校へ支援するサイクルができればこの取り組みがより広がるのではないかと思います。後輩の学生にはぜひ自分の考えや感覚を大切にして、正課・課外活動問わず自分が「楽しい」「取り組みたい」と思うことに、存分に取り組んでほしいと考えています。そういう学生を応援したいと思う校友の支援者の輪が広がっていくことは素敵なことだと思います。



当時の「西園寺育英奨学金」給付決定通知

支援者の声 Supporter's Voice

雪田倫代さん（'10文）

「奄美大島」と「京都」への想い

鹿児島県の奄美大島で高校まで過ごしていましたが、日本の歴史と文化に溢れている京都で日本文学を学びたいという想いから立命館大学に進学しました。大学での学生生活では、1回生のゼミクラスから日本文学の研究を進め、卒論では奄美ゆかりの島尾敏雄を取り上げました。現在は、地元へもどり奄美市の職員となり、所属は教育委員会です。また、今年は奄美群島本土復帰60周年の節目であることから、袖をPRするため、今年の「袖美人」という役目も担っています。

「基金」への支援のきっかけ

鹿児島県校友会の福元寅典会長（校友会未来人財育成基金募集推進委員会担当副会長）や事務局の方から基金についての説明を受けたことがきっかけです。

基金の「後輩・母校を先輩である校友が支援する」という理念に

共感するとともに、第1次活用プランである『「学生×校友×京都」グローバル人材育成交流拠点の設置』に強い関心を持ちました。滋賀のびわこ・くさつキャンパスがあり、新しく大阪茨木新キャンパスもできると聞きますが、やはり立命館発祥であり、私が学んだ京都に校友が活用でき、また校友の情報を学生や社会に発信できる拠点を創造することができればとの想いで今回の支援を行ないました。



誰でもできる気軽な支援

今回「基金」へ支援するにあたって、1口1,000円から誰でもできる気軽さや、インターネット経由でクレジット決済ができるという便利さが後押しとなり、想いを形にする実際の行動につなげやすかったです。これから気軽な気持ちで後輩・母校への想いを形にする校友の輪が広がっていけばいいなと考えています。

募集要項

1. 寄付の金額

- (1) 個人の場合／ひと口1,000円からご支援いただけます（継続寄付[毎月・毎年・年2回]が可能です）。
- (2) 法人の場合／ひと口の金額は特に定めておりません。

2. 募集期間

期間に定めはありません。

3. 寄付の目標額（第1次活用プラン）

10億円（2012年10月1日～2020年3月31日）

4. 申込方法

①WEB

立命館大学校友会のホームページよりお申込みください。
簡単な手続きで完了いたします。
クレジットカードにてご寄付いただけます。

<http://gift2r.info>



←携帯電話からのアクセスはこちら！

※一部機種によっては
ご覧いただけない場合がございます。

②ゆうちょ銀行・銀行振込等

上記のWEBからお申込みいただくか、下記の事務局までお問合せください。

5. 第1次活用プラン（2012年～2020年）

「学生×校友×京都」

グローバル人材育成交流拠点の設置 ～過去・現在・未来を結ぶ空間、校友の経験値を後輩に繋ぐ出発点～

6. 税制上の優遇措置について

本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

お問合せ先

（受付時間：土日祝を除く9：00～17：30）

■ 校友会未来人財育成基金に関しては・・・立命館大学校友会事務局 075-813-8216

■ 寄付の受入れ、税制上の優遇措置に関しては・・・立命館 総務部 寄付事務局 075-813-8110



「営業の職人」として 日本のものづくりにイノベーションを

株式会社FUK 市場開発部統括課長

原 浩司 さん（'00産社）

業界最前線で世界に挑む

神話の里として知られる奈良県御所市。静かなこの町に、海外の名立たる電機メーカーがひっきりなしに訪れるベンチャー企業がある。液晶パネルやタッチパネルにフィルムやガラスを高精度で張り合わせる装置を開発・製造するFUKだ。海外メーカーがしのぎを削る業界の最前線で、同社市場開発部統括課長の原浩司さんは、日本のものづくりの命運をかけて世界に挑んでいる。

原 液晶パネルとカバーガラスを1枚窓のように張り付けて作られるタッチパネル。二つの硬いものを張り合わせるこの作業はとても難しく、従来は真空状態で行なわれてきました。しかし、真空を発生させるには環境負担もコストもかかる。そこで「環境への負担がなく、コストの安い装置を」というコンセプトで開発したのが、大気中で作業ができる「大気Bend方式」による装置です。真空状態での作業に伴う問題点を解消し、高精度の張り合わせを可能にしました。この装置をはじめとする独自の技術を視察しようと、毎月10社近い海外メーカーが当社を訪ねてきます。

液晶パネル、タッチパネル業界を現在リードしているのは中国、台湾、韓国など海外メーカー。当社の顧客も圧倒的に海外です。世界でかき集めた情報から、次に来る携帯電話やテレビの構造、そこに求められる装置といった最新トレンドをいち早く分析し、開発に落とすのが私の役割です。「より精密で、より正確な装置を作る」。これは日本の

どの装置メーカーも考えていることですが、なかなか実現されていません。それは急激に成長する海外メーカーとの価格競争の中で、価格の高い日本のメーカーが淘汰されてしまうから。世界で勝つためには、機能性が高くコストを抑えた製品を目指して知恵をしぼらないといけない。FUKは、そんな取り組みで日夜試行錯誤を続けています。

紆余曲折の末めぐり逢った天職

1年の3分の2を海外で過ごし、帰国中のわずかな時間にも講演やメディア出演を行なうなど、精力的に活動する原さん。本人曰く、「天職」といわしめる現在の仕事だが、すんなりとたどり着いたわけではなかった。

原 初めて中国に行ったのは学生時代。当時、中国は発展途上のただ中で、チャンスさえつかめば成功できるような、その刺激的な雰囲気魅せられ「中国に関わりたい」と強く思うようになりました。帰国後も、このまま就職しているのかと葛藤し続けた結果、「1回きりのチャンス」と内定していた企業を辞退して、卒業とともに中国に渡りました。

数カ月後、日系企業を経済特区に誘致する中国国営企業での仕事に。経験を積んだ頃、「10年、20年先を見るなら、日本で仕事をする経験もしてみた方がいい」という上司からの勧めを受けて、日本で中国と関わる仕事をしていこうと決意しました。帰国後、総合商社に就職。液晶業界を担当し、上海の現地法人の立ち上げなどを経て、日本の液晶



関連技術を海外に紹介するチームのリーダーに。そんななか仕事を通じて液晶部材専門商社の社長に出会い、総合商社とは異なる職人的な仕事観に衝撃を受け、「この人の下で学びたい」と転職。「商い」へのこだわりを一から学びました。しかし数年後、恩師である社長が亡くなり、それを機会に自分も新しい道を歩んでみようと考えました。ちょうどその時、それまでの私の経験を評価して、総合商社が新しく立ち上げるプロジェクトへの参加を呼びかけてくれたのです。仕事内容にも興味をひかれ、条件も良く、もう一度チャレンジしようと転職を決めました。就業前に失業手当をもらおうとハローワークへ行ったのですが、手当てをもらうには企業面接の受験が必須と知り、そこで薦められるがまま面接を受けたのがFUKだったのです。

軽い気持ちで臨んだ面接のはずが、社長から話を聞いた後で製品を見せてもらおうと、これが驚くほど高精度。ものすごい商品力だと思いました。けれど技術者集団のFUKは営業面に弱く、利益を出せないことで自信まで失っているようでした。「これまでも良い技術を持った会社が消えていくのをたくさん見てきた。こんなにいいものが地元

あるのに、また一つ消えていくのかな……。面接からの帰り道、そんな思いに駆られました。「営業のプロフェッショナルとして、この会社を自分の力で伸ばしてみたい」。丸二日間考え抜いた末、大手商社の職を断り、年収数分の1の（笑）ベンチャーFUKでの新しい道を選びました。

日本のものづくりの可能性

成長著しい海外メーカーに圧倒され、日本のものづくりはかつてない危機に面している。日本の製造業はこのまま沈んでしまうのか。商社経験を通してものづくりの現場をみつめてきた原さんは、その未来をどう捉えているのか。

原 「メイド・イン・ジャパン」というのは、日本のものづくりの先人たちが何十年とかけて築き上げてきたブランド。世界で尊敬され、信頼を勝ち得てきました。しかし海外のコスト力や成長力、人材など様々な要因を前に、そのブラ

ンド力が衰えてきている。このままやっていれば日本のものづくりは5年ともたないかもしれない。それほどまでに事態は逼迫しています。

日本人が思っているよりもずっと前から、日本の産業の空洞化は始まっています。今、中国は急成長していた70年代の日本のように、そして日本は、そんな日本を見つめていた70年代のアメリカのようになってきている。日本の製造業がアメリカの製造業と同じなら、グローバル化する以外に生き残る道はないでしょう。けれど私は日本とアメリカの製造業は同じではないと信じています。何事もやり遂げようとする粘り強さ、良い意味でのこだわり。製造業において、日本人のこの精神性は、まだまだ大きな力となり得るのではないか。そこに可能性があると思じて、今は前に出て行かなければなりません。1000人規模の大企業も、FUKのような30人規模の小さな企業も、日本の製造業の将来が問われているという意味では同じです。未来に対して生まれ変わるべきところを追求し、30人規模でも戦い続けなくてはなりません。

私は「営業の職人」として、FUKの技術をベースに、小さくても価値があると信じているものをどこまでマーケットに打ち出していけるのか試してみたいのです。本当にもう打つ手がないのか、営業という側面から斬っていきたい。数え切れない企業の強さも弱さも見た上で、今の仕事に日本のものづくりの未来をかけて全力で臨んでいます。

メイド・イン・ジャパンの価値だけでやっていける時代はすでに終わりました。だからこそ今がフロンティア。創造力のある技術や商流といった、日本のものづくりの本当の価値に目を向けてイノベーションを興せるか。私にとってもチャレンジです。



中国・深圳での展示会におけるセミナー講演
(2013年5月下旬)

言葉をきっかけに向き合った 「中国と日本」

3カ国語を操る優れた語学力で仕事の幅を広げてきた
原さんには、中国語にまつわる思い出深い出来事がある。

原 中国に渡って間もない頃、鉄道で旅行に出かけたことがありました。言葉もまだあまり分からなかったのですが、車内で周りの中国人乗客が私に話しかけてきて、そのうち一人が「南京大虐殺を知っているか」と尋ねてきたのです。「日本人がいる」ということでどんどん人が集まり、気が付けば何十人もの乗客に取り囲まれていました。その時、誰かが私を小突いたのをきっかけに、そこにいる乗客が一気に攻撃し始めたのです。鉄道警察は騒ぎを止めようともせず、しばらくして見知らぬ駅で真夜中に放り出されました。監獄のようなところに入れられて数日を過ごすことになり、全身あざだらけでパスポートも全財産も盗まれ、最初は腹立たしさと絶望でいっぱいでした。

でもなぜこんなことが起きたのかとずっと考えているうちに、「私を攻撃してきた中国人のベースには彼らが受けてきた反日の教育がある。過去の日本人の行為に対する怒りや憎しみをたまたま身近にいた日本人にぶつけるのは、理性には欠けている。けれど、そうした環境の下でそのような考えを持つことは、人間的に否定できることではないかもしれない」と思うようになりました。歴史は消えない。けれど実際に攻撃されたのは今の時代を生きる私。今の世代の私たちは過去の世代の罪を背負い、謝罪し続けなければならないのだろうか。その時、「私は、自分の考えを表現したいし、彼らが本当にどう考えているのかを理解したい」と思いました。そのために必要なのは言葉。それが中国語を学ぶ原動力になったのです。旅行から戻ると1日20時間くらい猛烈に中国語を勉強し、2、3カ月後には中国人と対等に仕事ができるくらいに習得していました。

私にとっても嫌な記憶ですが、この事件があったからこ

そ、中国という国に向き合うことができたと思います。もしこの経験がなかったら、多くの人がそうであるように「中国と日本」というものなど他人事のような感覚のままだったかもしれません。中国に関わる仕事をする日本人は、必ずどこかで「中国と日本」という壁にぶつかります。大切なのは、その壁にどう取り組むか。私は壁を前にした時に、だからこそ自分からも表現したいと思い、そして「日中の架け橋となるような仕事がしたい」と、本当にやりたい事が見えてきたのです。

ぶつかることが「自分」を作る

「生きる力」を強烈に感じる人だ。自ら壁のあるところを目指し、乗り越え続けてきた。壁が見えにくくなった今の時代、真似のできない生き方のように思える。しかし、原さんは「若者を取り巻く環境は今も昔も変わらない」と言う。

原 今の学生や若者には立ち向かうべきところがないのかというと、私はそんなことはないと思います。立ち向かうべきものは実はとても身近にあって、自分で見つけるもの。大きなものもあれば小さなものもあり、今だっていくらでもあるはず。勝った・負けたに関わらず、立ち向かっていくという行動は必ず自分にとってプラスになる。その行動が自分を変えるのだと思います。

立命館、そして京都は、多様な種類の人に出会える場所。自分にはない「異物」に出会った時に、刺激されたり拒絶したりと反応するのも一つの成長です。たくさんの人に出逢うほど「自分」が出来てくる。感受性豊かな年齢でとにかくぶつかりに行き、いろんなリアクションから自分を見つけていけばいいと思います。社会に出れば、自分のやりたい仕事をしている人ばかりではありません。けれど、たとえ希望する仕事に就いていなくても、自分なりに成長

して進んでいこうと思えば、たぶんそこに自由というものが生まれるのではないのでしょうか。

Profile



Koji Hara

2000年	立命館大学産業社会学部卒業 中国へ渡航
2002年	在京商社で中華地区を担当
2006年	専門商社でタッチパネル関連部材
2010年	株式会社FUK 市場開発部統括課長 現在に至る

学生時代はワンダーフォーゲル部に所属。活動を通して旅の楽しみや探究心を知る。

「今こうやって海外と仕事をするのも、もとはと言えばワンゲルの活動が礎になっていると思います。山登りや旅をする事自体も好きですが、何よりも旅先で出会った人や仲間達と語らう、それこそがワンゲルの醍醐味」

趣味は寺社仏閣巡り。国内はもとより、中国出張時もチャンスがあれば出かける。奈良から中国、そしてシルクロードへ遡っていくのが夢。

「古の匠の技に触れる事で、私もいい仕事をしたいと気持ちを新たにできます」

ピンチをチャンスに変えて 新しい福島に

震災後、福島県は原発事故による風評被害と闘っています。様々な方面への影響が見られる中でも、著しい被害を受けたのは生産者でした。そんな生産者を支援しようと、福島県郡山市の馬場幸蔵さんは、福島県産品のみを紹介するネットショップ『福島屋商店』の活動を始めました。「地元の誇るべきものづくりを、このまま衰退させるわけにはいかない」。数年後、あるいは数十年後の、希望あふれる「新しい福島」へとつなぐため、馬場さんは生産者とともに奔走しています。

NPO法人 ネットショップ『福島屋商店』事務局長

馬場 幸蔵 さん（'76産社）Kozo BABA

ネットショップで地元生産者を支援

震災後、福島県では風評被害の影響が県全域で見られるようになり、農産物生産者はその被害を真っ先に受け、仕事が立ち行かなくなるといった状況でした。私の勤務先は、システム開発や企業等のサイト構築を行なう企業。その特性を生かして地元生産者への支援ができないかと考え、2011年7月、NPO法人ネットショップ『福島屋商店』の運営を始めました。地元で採れた新鮮野菜の詰め合わせを皮切りに、徐々に品目を増やし、現在は地酒や味噌、しょう油、スイーツなど福島県産品ばかりを集めた60近い商品をそろえています。



<http://www.fukushimaya-shoten.jp/>

信頼できる生産者が作る自慢の商品たち

福島屋商店も初めから順調に滑り出したわけではありません。PRのためにイベントに出店しても、初めのうちは誰も寄り付かないような状況でした。けれどしばらく経ったある時、福島支援のために催したイベントに予想を超える数の方が来てくださったのです。「みんな心のどこかで心配してくれているんだ」と、折れそうになっていた心が立ち直り、以来、地道な活動を続けてくることができました。

福島屋商店の商品は、自信を持ってお勧めできるものばかり。生産者のもとを訪ねて、ものづくりの様子を実際に見てきた信頼できる

ごまめに生産現場を訪ねる馬場さん（＝写真左）。福島屋商店でも旬の野菜の詰め合わせが人気の「会津活・活自然村」代表・高橋千鶴子さんと。



Profile 郡山市在住。HP企画・制作およびコンピューターシステム開発などを手がけるNKテック株式会社経営企画室長。「デジタル企業のアナログ担当」として、地元生産者の発掘に日々県内を駆け巡っている。福島県校友会副会長。

ものしか紹介しません。商品はサンプリングし、放射線量測定の定期検査を実施して安全を確認しています。そんな商品だからこそ、事業を軌道に乗せることができました。リピーター顧客が多いのも、商品に対する信頼の表れだと思っています。



自家製肥料で育てた野菜は、土つきでも食べられる。

「質」で選ばれるものが 福島の未来を拓く

震災から2年が経ち、「支援のために、被災地（福島）のものを購入しよう」という構図は変化してきています。これまでは「情」で買ってもらっていたところを、これからは「質」で買ってもらえるようにしていかなければなりません。では、「質」で買ってもらえるものをどうやって作るのか。その土地ならではのストーリーを持った「地域リァリティー」を商品化することがカギだと考えています。

たとえ安全が確認されても、放射性物質への不安はそう簡単にはなくなりません。丁寧に作ったものでも安い値段でしか買ってもらえない、だから良いものを作るのはあきらめる。そんな負のスパイラルに陥るのではなく、意識レベルを上げ、地元の将来を見据えた活動をしていかなければいけないのです。

今、福島はピンチをチャンスに変えるところに来ています。これを乗り越えれば、福島は前よりもきっと強くなるはずです。もしかしたら元には戻らないかもしれない。けれど元の方へと向かった時に、レベルアップした新しい福島でありたいと思います。

立命館大学校友会 2013年度東日本大震災復興支援事業計画について

このほど2013年度復興支援事業計画を以下のとおり確定いたしましたので、お知らせいたします。

2013年度復興支援事業の実施にあたりまして、引き続き、全国の校友の皆様による力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1.目的

- ①校友の校友による校友のための復興支援とし、被災地・日本の復興に繋ぐこと。
- ②被災地の校友（校友会）のニーズに応え、校友会全体の活動の活性化・組織の強化に繋ぐこと。

2.支援の対象

主として、岩手県、宮城県、福島県において被災された校友（校友会）

3.事業の概要

事業A：被災地の校友（校友会）と全国の校友（校友会）とを繋ぐ「場」と「機会」の創出

①webサイト上での情報の発信と交換の場の創出と展開

復興支援に関する情報を発信し交換することを目的とした「立命館大学校友会東日本大震災復興支援情報サイト」を開設しています。

②「オール立命館校友大会2013in京都」への被災された校友の招待

10月26日（土）に開催する「オール立命館校友大会2013in京都」に、東日本大震災の被害が特に甚大であった岩手、宮城、福島各県にて被災された校友の皆様（各県より10名様まで、合計30名様）をご招待（総会・懇親パーティーへのご招待、交通費・宿泊費の補助として50,000円を支給）します。

事業B：東北三県（岩手県、宮城県、福島県）の校友会による独自の取組みに対する支援

東北三県（岩手県、宮城県、福島県）校友会へお見舞金として一律の金額を配分します。

※各県校友会の復興活動資金としてお渡しします。

事業C：「復興支援金」の募集と推進、配分

立命館大学校友会では、東日本大震災で被害を受けた校友が多数在籍している岩手県校友会、宮城県校友会、福島県校友会による復興活動への支援を目的とした「復興支援金」を募集しています。

受付状況の推移に伴い、適宜、配分を決定します。

ご協力いただいた個人、団体・グループの芳名を会報「りつめい」に掲載（個人については、氏名、卒業年、学部・研究科名を公表）させていただきます。ただし、「立命館大学校友会東日本大震災復興支援情報サイト」上では、団体・グループ名のみとし、個人については人数のみを公表します。

※「復興支援金」のお振込みには会報「りつめい」253号に同封の払込取扱票をご利用ください。

※被災された校友（個人）へのお見舞い金とすることを目的とした「義援金」の募集は2013年7月31日をもちまして終了いたします。

事業D：東北応援ツアーの実施

全国の校友を参加対象とした「東北応援ツアー」を実施します。（参加対象は立命館大学の校友のみ）

趣旨・目的は以下のとおりです。

- ①被災地（特に被災地の校友が経営・勤務する店舗や施設）を客として訪問することで、被災地の活性化に貢献すること。
- ②全国の校友が被災地を訪問し、また被災した校友と交流することを通して東日本大震災について学ぶ契機とすること。

上記以外の立命館大学校友（校友会）による東日本大震災復興支援活動に関するご相談やご不明点がございましたら、立命館大学校友会事務局（フリーダイヤル0120-252-094）までご連絡ください。

立命館大学校友会東日本大震災義援金について

2013年2月1日～5月31日に以下の皆様方から義援金をお寄せいただきました。ご協力いただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。

● 個人（卒業年・50音順）※敬称略

小川 竹二（'60・経済）	糸田川廣志（'72・理工）	辻本 浩幸（'86・経済）	五味 秀剛（'99・産社）
上田 隆（'66・法）	田中 裕二（'73・法）	鈴木 孝尚（'92・経済）	高橋 正樹（'72入学・経営）
中本 靖夫（'70・経営）	古賀 宏（'74・産社）	丹羽亮太郎（'95・経済）	● 団体・グループ・企業（50音順）
向井 彰（'70・産社）	池田 互隆（'83・理工）	中島 裕子（'98・経営）	秋田県校友会

※卒業年、学部・研究科名は、校友会に登録されている情報に基づき記載しています。なお複数の学部・研究科を卒業・修了されている場合は、最終歴を記載しています。

合計 12,898,820円 2013年5月31日現在（個人 4,158名 8,069,944円 団体・グループ 177件 4,828,876円）

立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業

義援金の受付終了と復興支援金の募集開始のお知らせ

復興支援金の受付を開始しました。義援金の受付は2013年7月31日をもって終了します。

立命館大学校友会は2011年3月24日から義援金の募集に取り組み、お寄せいただいた義援金は12,898,820円（2013年5月31日現在）にのぼっております。皆様からの温かいご支援に感謝いたします。

復興支援特別委員会は今後の復興支援事業のあり方について東北三県校友会と協議するなかで、個人の方に対してのお見舞金として届ける

ことを目的とした義援金の受付は終了し、被災地校友会による復興に向けた取り組みのサポートを目的とした復興支援金の募集をあらたに開始することといたしました。

現地校友会による復興活動を応援するために、引き続き、校友の皆様のご支援・ご協力を賜りたく存じます。

※「復興支援金」のお振込みには会報「りつめい」253号に同封の払込取扱票をご利用ください。

海の向こうの立命人

Yayoi Japan Coaching 代表

MÖLLER 越智 CAROLINE やよい さん('00文)

世界中に広がる校友たちの活躍の舞台。『海の向こうの立命人』では、各国で活躍する校友を紹介します。今回は、ドイツで活躍するYayoi Japan Coaching 代表のMÖLLER越智 CAROLINE やよいさんにインタビュー。モラーさんとともにドイツ校友会の発足に関わった関西テレビ放送報道部特派員の佐藤一弘さん('99法)にも同席いただき、ドイツで働くこと、暮らすことについてお聞きしました。



PROFILE

高校2年生までをドイツで過ごし、日本へ。卒業後、再び渡独しJETRO（日本貿易振興機構）に就職。その後、五つ星ホテルのセールスマネージャーとして経験を積み、2006年に通訳業務などを行なう「Yayoi Japan Coaching」（www.japancoaching.com）を設立、代表を務める。

左：MÖLLER越智 CAROLINE やよいさん
右：佐藤一弘さん



YOU ARE LEAVING
THE AMERICAN SECTOR
BY BIEZHAETE
AMERIKANISCHES GEBIET
VOUS SORTEZ
DU SECTEUR AMERICA
IN
SIE VERLASSEN DEN AMERIKANISCHEN SEKTOR

From Germany

日本人に馴染みやすい精神文化

モラー 日本人とドイツ人の両親を持ち、日・独両国の生活を経験しながら成長したため、私自身は仕事をする上での難しさなどを特に感じることはありません。しかし、それぞれの文化によるビジネス方法は存在します。そこで両国で集めた知識と経験をふまえて、日・独企業を対象に、通訳および翻訳業務、リサーチ、コーディネーション、コンサルティングといった四つの柱のビジネス・サポートを行なっています。

ドイツでは、児童・産休手当、産休・育児休暇、社会保険における育児期間の優遇措置などの他、生後間もない子供の育児のために休職する親の収入損失を補う「親手当」という制度など、様々なサポート策が存在します。ドイツは、日本人にとってヨーロッパの中で最も住みやすい国だとよく言われます。ドイツ人と日本人のメンタリティー、つまり双方が考える「常識」は非常に似たところがあるのです。

佐藤 約束を守るドイツ人は、仕事においても日本人の感覚に合う相手だと思います。これはヨーロッパではなかなか貴重なことです。

ドイツ校友会の仲間たち

モラー ドイツ校友会はまだまだ小さな会ですが、年齢層は幅広い。共通しているのは、みなさんととても明るくてユニークだということです。関西パワー(?)のおかげか、会話のネタは尽きず、会の翌日も笑いジワが消えないくらいです。

佐藤 元々は私がドイツへ赴任することになった時に、日本人同士の異業種ネットワークがあればと思ったのが校友会立ち上げのきっかけでした。モラーさんと仕事を通して出会い、コミュニティペーパーや

facebookを通して集まりを呼びかけてみたのです。その呼びかけに反応してくれた方と始めたのがドイツ校友会。母校が同じという共通軸だけの集まりですが、お互いに助け合えることが必ずあると思います。

モラー ドイツにも校友会があるということを知ってもらうためにアクションは続けていくつもりです。ドイツ全土で活躍する校友を集結するのは難しいことですが、これからもバランスよく国内を巡って会を開きたい。海外にいる時に校友会の存在は心強いもの。校友会をみなさんにとって安心できる場所にしていきたいですね。

日本、そして立命館校友への期待

モラー ドイツでは、日本人の繊細さや正確性、律儀さが、今なお高く評価されており、私も誇りに思っています。立命館大学にはこれまで通り、現役学生同様、校友を大切にしてもらいたい。ドイツの大学にはそのような取り組みがありませんので、良い見本になるはずですね。海外に暮らして思うのが、ネットワークの大切さ。校友会は新しい仲間に出会える場所です。立命館大学の校友が校友会を通してさらに多くの方と新たな交流を深め、欧州でより幅広く活躍されることを期待しています。

校友会 DATA

ドイツ校友会

2012年設立
会員数約20名
懇親会を年に2回程度開催予定



2013年度 校友会幹事会報告

山中 諄会長から村上健治新会長へバトンタッチ

6月1日(土)、立命館朱雀キャンパスにおいて、2013年度幹事会が開催され、校友会三役(会長、副会長、監事)、常任幹事、幹事の約240名が全国から参集した。

冒頭、長田豊臣立命館理事長からの挨拶に続いて、2015年に開校を予定している大阪茨木新キャンパスのイメージ映像が上映された。その後、山中 諄校友会会長が議長となって議事を進め、8件の報告と4件の審議が行なわれた。

報告事項の「立命館大学校友会 本部役員人事について」では、山中会長の任期満了による退任と、それに伴う村上健治副会長の新会長への選任、また村上副会長の退任に伴う小野守通氏(新潟県校友会会長)の新副会長への選任について等の報告があった。

議事終了後には、会議当日をもって退任する山中会長が再び登壇し、「立命館は近年飛躍的に発展し、社会的評価が高くなった。その評価は校友の皆様の社会での活躍のおかげ。会長就任時、校友会とは裾野をいかに広げていくかが大事だと考えていた。これからも校友会と大学の発展には、若いパワーを入れる必要がある。今日からは一校友として校友会の発展に協力していきたい」と、これまでの支援に対する謝辞を述べた。後任の村上副会長は「山中会長の類まれなるリーダーシップで校友会は活気のある会になった。ますます良い校友会にしていきたい、皆様のお力添えをいただき、全身全霊でがんばっていききたい」と就任への意気込みを力強く語った。なお、山中会長は名誉校友に就任する。



審議事項

以下の事項につき審議が行なわれ、承認された。

- ◆2012年度事業報告および2013年度事業計画案について
- ◆2012年度決算報告および2013年度予算案について
- ◆「立命館大学校友会 本部役員選任規則」の制定について
- ◆「立命館大学校友会 会則」の一部改正について

報告事項

常任幹事会にて審議・承認された以下の事項につき報告が行なわれた。

- ◆2013年度立命館大学校友会 新卒幹事について
- ◆「オール立命館校友大会2012in新潟」開催報告書について
- ◆「オール立命館校友大会2013in京都」の開催概要について
- ◆「オール立命館校友大会2014in岡山」の開催概要について
- ◆2015年度校友大会のあり方について
- ◆「立命館大学校友会 設立100周年記念事業特別委員会」の設置について
- ◆「校友会未来人財育成基金」の募集推進活動状況について
- ◆立命館大学校友会 本部役員人事について

校友会本部役員

会 長	村上 健治(70 経済)
副会長	小野 守通(69 経営)

2012 年度決算

●収支決算書(2012年4月1日から2013年3月31日まで) (単位:円)

科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
<経常収入の部>		<その他資金収入の部>	
会費収入	209,493,000	前期末未収金収入	48,255
資産運用収入	26,393	立替金回収収入	2,435,779
組織強化事業収入	2,025,000	預り金収入	54,363,300
校友大会事業収入	12,246,000	期末未収金	△ 45,900
広報事業収入	26,085,639	その他資金収入合計	56,801,434
その他の収入	166,797	<その他資金支出の部>	
経常収入合計	250,042,829	その他の支出	5,100,000
<経常支出の部>		徴収不能金	28,000
組織強化事業支出	47,364,593	前期末未払金支出	45,140
校友大会事業支出	53,421,935	立替金支払支出	2,537,689
奨学金事業支出	5,270,000	預り金支払支出	15,227,400
広報事業支出	69,401,336	期末未払金	△ 989,654
母校支援事業支出	6,758,540	その他資金支出合計	21,948,575
復興支援事業支出	9,386,718	その他資金収支差額	34,852,859
人件費支出	24,931,976	当期収支差額	
運営費支出	25,284,319	前期繰越収支差額	
経常支出合計	241,819,417	次期繰越収支差額	
経常収支差額	8,223,412		

●貸借対照表(2013年3月31日現在) (単位:円)

科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
<資産の部>		<負債の部>	
現金預金	90,789,149	未払金	989,654
立替金	103,210	預り金	40,122,437
未収金	45,900	負債合計	41,112,091
基金積立金預金	925,434,947	<正味財産の部>	
資産合計	1,016,373,206	基金積立金	925,434,947
		運用財産	49,826,168
		正味財産合計	975,261,115
		負債及び正味財産合計	
		1,016,373,206	

2013 年度予算

●収支予算書(2013年4月1日から2014年3月31日まで) (単位:円)

科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
<経常収入の部>		<その他資金収入の部>	
会費収入	206,370,000	前期末未収金収入	45,900
資産運用収入	15,000	立替金回収収入	103,210
組織強化事業収入	1,600,000	預り金収入	46,440,000
校友大会事業収入	7,000,000	その他資金収入合計	46,589,110
広報事業収入	25,600,000	<その他資金支出の部>	
その他の収入	100,000	その他の支出	4,500,000
経常収入合計	240,685,000	前期末未払金支出	989,654
<経常支出の部>		預り金支払支出	35,712,437
組織強化事業支出	51,880,000	その他資金支出合計	41,202,091
校友大会事業支出	35,000,000	その他資金収支差額	5,387,019
広報事業支出	79,320,000	予備費	
母校支援事業支出	23,800,000	5,000,000	
復興支援事業支出	8,700,000	当期収支差額	
人件費支出	29,230,000	△ 13,647,981	
運営費支出	26,790,000	前期繰越収支差額	
経常支出合計	254,720,000	90,789,149	
経常収支差額	△ 14,035,000	次期繰越収支差額	
		77,141,168	

2013 年度 新卒幹事

法学部	杉本 淳
経済学部	岩佐有香里
経営学部	大原 駿
産業社会学部	山口 昌吾
国際関係学部	小川 翔平
政策科学部	牧口 直人

映像学部	和田慎太郎
文学部	芦田 英恵
理工学部	四井 早紀
情報理工学部	阪井 拓也
生命科学部	芳中 奈生

2012年度校友会新卒幹事懇談会が行なわれました

2013年3月11日(月)、朱雀キャンパス校友会会議室で「2012年度校友会新卒幹事懇談会」が開かれた。各学部から選出された11名の新卒幹事候補(同日現在)より8名が出席し、校友会副会長と歓談を楽しんだ。



今年度は村上健治校友会副会長(’70産社、現・会長)が出席。村上副会長は「校友と学生は車の両輪。学生が輝くことは校友の誇りになり、校友の活躍は学生にとって勇気になる。社会に出ていろんな壁にぶち当たった時、校友の先輩たちと触れ合えばきっと元気をもらえる。校友会に積極的に関与して、さらに豊かな社会人生活にしてほしい」と、春から社会に旅立つ候補者たちにエールを送った。候補者たちも、社会に出た際の気構えなど、第一線で活躍する先輩の言葉に聞き入っていた。

新卒幹事候補者は、6月1日(土)の幹事会で、山中 諄校友会長(’65経済)によって指名・選任されたことが報告された(新卒幹事一覧はP.15に掲載)。

半世紀ぶりの旧友との再会!「卒業50周年記念祝賀会」

2013年3月14日(木)、ホテルグランヴィア京都で、立命館大学校友会主催「2012年度卒業50周年記念祝賀会」が開催された。今年卒業後50周年の節目を迎える、1963年卒業の校友287名が、半世紀の時を超えて学生生活を過ごした地に集った。

第一部は、坂本和一立命館大学名誉教授・百年史編纂室顧問による記念講演。参加者は立命館の現在までの70年を懐かしく振り返ると同時に、立命館のこれからについて関心を深めた。第二部では、山中 諄校友会長より「先人の皆様の努力のおかげで、立命館は今、非常に頼もしい大学になりました。今日は短い時間ですが、旧交を温めながら様々に情報交換していってください」と式辞が述べられ、続く川口清史立命館総長による来賓代表挨拶の後、長田豊臣立命館理事長の乾杯発声で歓談が始まると、会場は旧友との

久々の再会を喜ぶ笑顔であふれた。終盤、参加者を代表して理工学部卒業の佐伯希彦さん(校友会常任幹事、総務委員)から開催への謝辞が述べられ、応援団が「ファイトオンステージ」を披露。盛り上がりの中、大きな拍手とともに会は幕を閉じた。

当日は、「校友会未来人財育成基金」への協力呼びかけもあり、会場入口のブースには基金の趣旨に賛同した参加者が駆けつけ、たくさんの支援が寄せられた。



「第7回 立命寄席」盛大に

2013年4月6日(土)、大阪市の天満天神繁昌亭にて「第7回立命寄席」が開催され、近畿ブロック校友会関係者をはじめ約200名が来場した。



立命館大学落語研究会OBで、上方落語界で活躍中の桂塩鯛・桂小春團治両師匠による「立命寄席」は今年で7回目。「立命館大学校友会近畿ブロック文化事

業」として、学生野球の観戦や駅伝応援等のスポーツイベントと並んで、立命館校友の交流の場として定着している。

出囃子にのって登場した桂塩鯛・桂小春團治両師匠は、それぞれ「強情灸」と「つぼ算」をテンポよく熱演。さらに中入り後は、小春團治師匠が「日本の奇祭」、塩鯛師匠が「住吉駕籠」で素晴らしい話芸を披露。集まった観客からは何度も大きな笑いの渦が巻き起こり、盛大な拍手で幕が下ろされた。

校友会奨学金授与式が開催されました

2013年3月18日(月)、「2012年度校友会奨学金授与式」が、朱雀キャンパス大講義室で行なわれました。課外・自主活動等において、特に顕著な成果を修め、本学校友の学園アイデンティティを高めるような成果を挙げた個人を表彰する「校友会長賞」が、スポーツおよび学術・文化・芸術の2分野で10名の学生に贈られました。

校友会からは、福元寅典校友会副会長が出席。「うれしいことは



かりでなく、悲しいことや悔しいこと、それを乗り越えてのひたむきな努力に、あらためて敬意を表したい。卒業後も皆様が活躍し、元気であり続けることが、後輩たちへの一番のエール。社会のあらゆる分野で実力を発揮されとともに、校友会においても活発な交流を通じて輝き続けてください」と受賞者に励ましの言葉を送りました。

受賞者を代表して、女子陸上競技部の藪下明音さん(経営学部3回生=当時)が挨拶し、「活動を続けられるのもたくさんの支えがあってこそ。応援してくださる皆様に感謝を込めて、学業にもしっかりと力を入れ、文武両道を目指します」と、今後の活躍を誓いました。

なお当日は、併せて「立命館大学個人表彰・団体表彰」「川本八郎課外活動団体奨励金」「立命館大学学生部部長表彰」の給付証書授与式も行なわれました。

『立命館百年史』通史第三巻を刊行

2013年2月、『立命館百年史』通史第三巻が刊行されました。『立命館百年史』の編纂は、1991年に「創立百周年記念事業」の一事業として位置づけられ取り組まれてきたもので、『通史一』は1999年3月に、『通史二』は2006年3月に刊行されました。このたび刊行した『通史三』と、続く『資料編三』をもって『立命館百年史』は完結を迎えます。

『通史三』では、1980年代の衣笠一拠点化から第三次、第四次、第五次の三つの長期計画、学園創立100周年の2000年、立命館アジア太平洋大学の創設、そして2006年の立命館小学校創設、「立命館憲章」の制定までの学園創造の歩みを叙述しています。また、この時代の教学改革や学生支援政策、進路・就職政策、入学試験制度の改革、国際化の新たな取組み、産学官連携、研究政策の新展開、附属校政策など主要な政策について、政策文書からの引用を含め叙述しています。

『通史三』の各章の草稿は、当時その事業に取り組まれた教職員や現在職掌されている教職員の手によるもので、執筆者の数は70名を超えています。立命館百年史編纂委員会(約50名の委員で構成)ならびに同常任委員会のもと、全学園の教職員が参加した執筆体制や、校正・編集における担当部課の協力など、『通史三』の編纂体制が全学園あげて取り組まれたことは『通史三』編纂の特徴であり、立命館らしさでもあります。

今後、百年史編纂の過程において蓄積された史資料をこれからの学園の発展に活かしていくために、2013年4月より、百年史編纂室から「立命館 史資料センター準備室」へ移行し、学園史資料の収集・保存と利活用を進めています。



『通史三』の主要目次は次の通りです。
序 章 1980年代から21世紀へー立命館学園の発展
第一章 1980年代の学園政策
ー1979年度全学協議会確認から第三次長期計画の実施へ
第二章 1990年代の学園政策(1)
ー「学園規模問題」の抜本的解決を目指す第四次長期計画と第五次長期計画の推進
第三章 1990年代の学園政策(2)
ー学園の質的高度化と社会的ネットワークの展開
第四章 立命館アジア太平洋大学の創設
第五章 21世紀の学園創造に向けて

刊行記念として、2014年3月まで、『通史三』(A5版、1,928頁、上製函入)を5,000円(通常価格7,000円)で取扱い中。お申し込みは、(株)クレオテック(075-463-9740)まで。

都道府県校友会／海外校友会

3/2 上海校友会総会
(22名・レストラン美林閣)



上海校友会

3/8 台湾校友会総会
(53名・台北晶華酒店)



台湾校友会

地域校友会

5/11 奈良県校友会天理わだつみ会総会
(約30名・川原城会館)



天理わだつみ会

5/12 奈良県北部校友会（立命若草会）総会
(約100名・ホテル日航奈良)



立命若草会

5/19 福知山校友会総会
(17名・たかた荘)

職域校友会

2/23 衣笠会（京都府技術職員校友会）
(約50名・御所西京都平安ホテル)



朋命会

2/26 朋命会総会
(22名・神戸市水道局研修センター「北野会館」)

2/28 Rits不動産ネットワーク例会
(約60名・京都タワーホテル 8F「レストラン・ラ・トゥール」)

3/6 弁理士校友会総会・弁理士試験合格者祝賀会
(約20名・ニューミュンヘン北大使館)

3/15 姫路市役所衣笠会臨時総会
(約40名・姫路キャッスルグランヴィリオホテル)

3/22 立命館法曹会総会
(約30名・新都ホテル)

4/14 兵庫県社会保険労務士立命会総会
(約10名・東天紅神戸三宮センタープラザ店)

5/10 神戸製鋼所校友会新入社員歓迎会
(19名・マンダリンパレス)

5/15 茨木市役所立命館大学校友会歓迎会
(32名・三府鮎)

5/17 南都銀行立命会総会
(160名・榎原神宮養正殿)



神戸製鋼所校友会

学科・ゼミ校友会

5/18 オール堅太郎同窓会
(114名・諒友館地下カフェテリア)

サークルOB・OG会

2/23 数学研究会OB会
(26名・平八)

2/27 ワンダーフォーゲルOB会 1969年卒同期会
(16名・タイ)

3/2 サイクリングクラブOB会
(約30名・ホテル佐野家)

3/16 会計学研究会OB会総会
(41名・京都タワーホテル)

5/18 立命館スポーツフェロー懇親会
(約430名・ANAクラウンプラザホテル京都)

5/18 混声合唱団「メディックス」OB五月会
(約30名・末川記念会館))



数学研究会OB会



ワンダーフォーゲルOB会

その他の会

4/21 百万遍寮校友会総会
(約40名・石長松菊園)

5/16 昭和33年度卒化学科同期会
(23名・聖護院 御殿荘)

5/19 徳島県高等学校・特別支援学校部会設立総会
(14名・グランドパレス徳島)



昭和33年度卒化学科同期会



徳島県高等学校・特別支援学校部会

校友会・グループ インフォメーション

校友会・グループ	日 時	会 場	問い合わせ先
法学部同窓会総会	6/29 (土) 13:00	京都ロイヤルホテル&スパ	法学部事務室内 075 (465) 8175
新潟県校友会総会	6/29 (土) 14:00	ホテルイタリア軒	小畑 正敏 025 (247) 2478
香川県校友会総会	6/29 (土) 16:00	ホテルパールガーデン	穴吹 学 087 (862) 3565
高知県校友会総会	6/29 (土) 17:30	ザ クラウンパレス新阪急高知	平井 雅章 090 (2781) 9734
大阪校友会年次大会	7/5 (金) 18:30	スイスホテル南海大阪	立命館大阪梅田キャンパス 06 (6360) 4895
岩手県校友会総会	7/6 (土) 15:00	ホテル東日本	酒井 博忠 019 (654) 3893
法学部商法塩田ゼミ OB 会	7/6 (土) 16:00	京都ホテルオークラ	榊原 徳重 075 (255) 9102
佐賀県校友会総会	7/6 (土) 18:00	ホテルニューオータニ佐賀	伊香賀俊介 0952 (53) 4243
山口周南地区校友会総会	7/6 (土)		小西ヨシ子 0833 (41) 0412
八幡支部総会	7/7 (日) 16:30	東華菜館	岡島 完治 075 (983) 3063
八尾市役所「立八会」総会	7/12 (金)	山徳	
国際関係学部校友会総会	7/13 (土) 12:30	東京ステーションコンファレンス 6 階	国際関係学部事務室内 075 (465) 1211
上海今出川会	7/14 (日)		久世 健一 kuze.kenichi@alconix.com.cn
九州女子会	7/20 (土) 12:00		
九州ブロック BBQ 大会	7/20 (土) 15:00	江藤ボートハウス	飯田 俊之 (職) 096 (326) 8625
宮城県校友会総会	7/20 (土) 16:00	仙台ガーデンパレス	柏原 晋 022 (286) 9928
神奈川県校友会「校友の集い・総会」	7/20 (土) 16:00	崎陽軒	野口 邦夫 kunio.noguchi@gmail.com
岐阜県校友会総会	7/20 (土) 16:00	グランヴェール岐山	房野麻紀子 (職) 0584 (74) 3036
徳島県校友会総会	7/20 (土) 17:00	阿波観光ホテル	鎌田 啓三 088 (664) 2344
全国行政書士立命会	7/20 (土)	朱雀キャンパス多目的室	安澤 英治 090 (7753) 3064
岡山県校友会総会	7/21 (日) 17:00	アークホテル岡山	守屋 博司 (職) 086 (232) 0945
青森県校友会総会	7/27 (土) 15:00	ウエディングプラザ「アラスカ」	船水 重利 017 (722) 2926
秋田県校友会総会	7/27 (土) 16:00	パーティーギャラリーイヤタカ	今野 謙 018 (831) 1250
愛媛県校友会総会	7/27 (土) 17:00	リジェール松山	石田 二郎 089 (925) 2547
福岡県校友会ウエルカムパーティー	7/27 (土) 18:00	レストラン il Cortile	大成印刷 (株) 内福岡県校友会事務局 (職) 092 (472) 2621
静岡県校友会総会	7/28 (日)		大石 育三 0545 (63) 8984
広島県東部校友会新人歓迎会	8/3 (土) 15:30	コロナワールド	寺田 幸生 090 (3373) 2543
沖縄県校友会総会	8/3 (土)		島袋 健 090 (7587) 0858
兵庫県校友会新人歓迎会	8/17 (土)		寺田 豊 terada@sonoda-u.ac.jp
池田泉州銀行立命会総会	8/21 (水) 18:30	スイスホテル南海大阪	
立命館ニューヨーク校友会	8/23 (金) 19:00	NY市マンハッタン区内	安久 和伸 kazagu@gmail.com
熊本県校友会総会	8/24 (土) 17:00	熊本全日空ホテルニュースカイ	飯田 俊之 (職) 096 (326) 8625
理工 ESS OB 会創部 60 周年記念全国大会	9/6 (金) 13:00	京都タワーホテル	
九州ブロックゴルフ大会	9/7 (土) 11:10	九州ゴルフクラブ (八幡コース)	田邊 裕 090 (9213) 3398
湘南クラブ ブランチ会	9/8 (日) 11:00		茂山 哲也 045 (852) 4562
村上弘教授を囲む会	9/21 (土) 14:00	衣笠キャンパス末川記念会館	小谷 将司 (職) 075 (751) 4834
千葉県校友会総会	10/5 (土)		原 宏亮 047 (485) 8998
兵庫県校友会総会	10/6 (日) 11:00		辻 寛 (FAX) 078 (753) 1955
長崎県校友会総会	10/19 (土)		山口 孝司 (職) 095 (825) 3795
高槻・島本校友会総会	10/19 (土)	アンシェルデ・マリアージュ	渡邊 昇 072 (673) 1634
オール立命館校友大会 2013 in 京都	10/26 (土)	ホテルグランヴィア京都	校友会事務局 075 (813) 8216

お詫びと訂正

校友会報りつめい252号(2013年春号)、30ページ「校友会・グループ インフォメーション」において、大阪校友会年次大会および八幡支部総会の開催日時のご案内に誤りがありました。ここに訂正し、読者の皆様および関係者の皆様にご迷惑おかけしましたこと深くお詫び申し上げます。正しい日程につきましては、上記表にてあらためてご確認いただけますようお願いいたします。



日にち **10月26日(土)** 会場 **ホテルグランヴィア京都 京都駅ビル(駅前広場、室町小路広場)**

主催 / 立命館大学校友会 共催 / 立命館大学、立命館アジア太平洋大学

企画 EVENT 1 総会・懇親パーティー 17:00~19:30

事前申込制 申込方法 インターネット FAX
場所: ホテルグランヴィア京都 3F 源氏の間および前室
対象: 校友およびその同伴者

●オープニング・アクト
華道家元池坊次期家元の池坊由紀さん(2012年・院文)が登場。日本の歴史と文化・心と技に触れる厳かで優雅なひと時を共有します。

○総会
○懇親パーティー
○RUSH×OLD RUSH
立命館大学JAZZ CLUBを代表するビッグバンドRUSHと、60歳代の先輩バンドOLD RUSHが揃い踏み。楽しい時間をよりゴージャスに彩ります。

○大会旗引継ぎ式
○応援歌斉唱
司会: 宮本英樹氏(1984年・産社/KBS京都)×小野田真由美氏(1999年・政策/NHK京都)

参加費 **¥8,000** 定員 **900名**
着席・円卓形式
源氏の間および前室に900席をご用意いたします。満席になり次第、受付を終了します。お申込はお早めに!

卒業30年目校友(1983年卒)の方は、ご招待(参加費が無料)となります。この機会に、ぜひご参加ください!

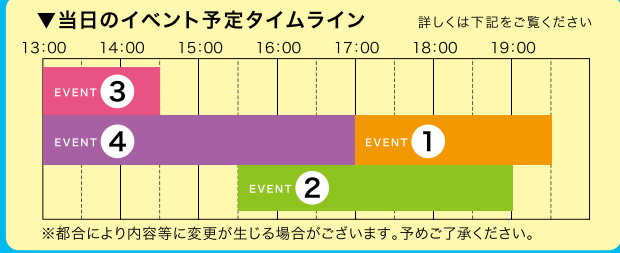
企画 EVENT 3 音楽とホテルスイーツを楽しむアフタヌーンティーパーティー 13:00~14:30

事前申込制 申込方法 インターネット FAX
場所: ホテルグランヴィア京都 3階 源氏の間
対象: 女性校友およびその同伴者(女性、小さなお子様に限ります)

参加費 **¥1,000** 定員 **150名**
※企画①総会・懇親会パーティーにご参加の女性校友は無料となります。

受付期間: 7月22日~9月20日 ※定員に達し次第受付を終了します。お申込みはお早めに!
インターネットでのお申込み <http://www.hajimari.info>
FAXでのお申込み 大会特設WEBサイトから専用フォームをダウンロードしてご利用ください。
大会特設WEBサイト (7月1日オープン予定) お電話でも承ります。お気軽にご連絡ください。

R Alumni 大会に関するお問い合わせは 立命館大学校友会事務局(立命館大学社会連携部 校友・父母課)
e-mail: alumni@st.ritsume.ac.jp 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地 TEL: 075-813-8216 FAX: 075-813-8217



企画 EVENT 2 !若手校友集合! 立★コン 15:30~19:00

事前申込制 申込方法 インターネット
会 場: ホテルグランヴィア京都 5F 古今の間
対 象: 2001年以降卒の校友(未婚、既婚は問いません) 同性2名1組での申込みを原則とします。

流行の人狼ゲームなどで、初対面が苦手な方も大丈夫! 交流会のあとは、ディナーパーティー(立食・buffet形式)もご用意。

参加費 **¥3,000** 定員 **200名**

企画 EVENT 4 大会恒例の後輩たちによるステージイベント 13:00~17:00

見学自由 場所: 京都駅ビル(駅前広場、室町小路広場)

託児室を開設します

無料 場 所: ホテルグランヴィア京都内
利用対象: 企画①②③のいずれかにご参加の校友
※受付期間: 7月22日~10月18日
※預かりできる人数に限りがありますので 予めご了承ください。

後輩・母校の未来への贈り物
校友会 未来人財育成基金
大会開催を記念して特別募集を行います。詳しくは、大会特設WEBサイト、本誌次ページでお知らせしています。

がんばろう日本
立命館大学校友会 東日本大震災被災地復興支援
今大会の参加費・協賛金収入の10%を、立命館大学校友会が募集する復興支援金とさせていただきます。

「オール立命館校友会大会 2013 in 京都」開催記念 後輩・母校の未来への贈り物 「校友会未来人財育成基金」特別募集のお知らせ

「オール立命館校友会大会 2013 in 京都」の開催を記念して、「校友会未来人財育成基金」の特別募集を行ないます。

「校友会未来人財育成基金」への寄付は、立命館大学に対する寄付になります。立命館大学校友会は、後輩・母校支援のため立命館大学とともに「校友会未来人財育成基金」の募集推進を行なっています。

特別募集要項

今回の特別募集に応じてくださった皆様のお名前・法人名は、立命館大学と立命館大学校友会で共有のうえ、「オール立命館校友会大会 2013 in 京都」のパンフレットに掲載させていただきます。

募集期間 **2013年7月1日(月)~7月31日(水)**
受付金額 **1口1,000円 10口(10,000円)以上**
受付方法

(1) 個人としてご寄付いただく場合
インターネット
校友会大会特設WEBサイトから、特別募集受付画面にアクセスしお申込みください。

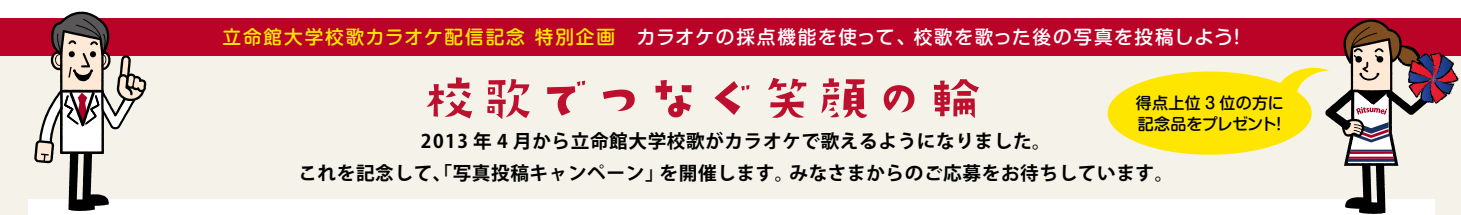
FAX
校友会大会特設WEBサイトから専用申込フォームをダウンロードし、必要事項をご記入のうえ「立命館 総務部 寄付事務局」まで送信してください。

(2) 法人としてご寄付いただく場合
FAX
校友会大会特設WEBサイトから問合せフォームをダウンロードし、必要事項をご記入のうえ「立命館 総務部 寄付事務局」まで送信してください。その後、手続き方法の詳細をご案内させていただきます。

税制上の優遇措置について 本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

お問合せ先 (受付時間: 土日祝を除く 9:00~17:30)
■本特別募集に関しては...立命館大学校友会事務局 075-813-8216
■寄付の受入れ、税制上の優遇措置に関しては...立命館 総務部 寄付事務局 075-813-8110

立命館大学校歌カラオケ配信記念 特別企画 カラオケの採点機能を使って、校歌を歌った後の写真を投稿しよう!



校歌でったく笑顔の輪

2013年4月から立命館大学校歌がカラオケで歌えるようになりました。これを記念して、「写真投稿キャンペーン」を開催します。みなさまからのご応募をお待ちしています。

得点上位3位の方に記念品をプレゼント!

募集概要

個人・グループどちらでも応募可能です。
校歌を歌った後の得点画面の写真を投稿してください。投稿写真は、立命館 CLUB ホームページに公開します。また、全応募者の得点上位3位の方に記念品をプレゼント! 85点以上の方に、ささやかですが「立命館グッズ」を差し上げます(グループ応募の場合は、代表者様に差し上げます)。

応募資格

校友(卒業生)・父母・学生・一般の方などでも応募可能です。
※エントリーする際に無料のメールマガジン「立命館 CLUB」への会員登録が必要になります

募集期間

2013年6月28日(金)~2013年9月27日(金)

校歌が歌える場所

●カラオケ機器「DAM」を導入している全国各地の店舗
リクエスト番号: 5091-26
●カラオケ機器「JOYSOUNDまたはUGA」を導入している全国各地の店舗
リクエスト番号: 723479 (JOYSOUND) / 6524-27 (UGA)

応募方法

3つのステップで、簡単にエントリーできます。
➡STEP1 カラオケ店に行き、校歌を歌う
歌う際にカラオケの採点機能を利用してください。
➡STEP2 校歌を歌った後の得点画面を撮影
歌われた方、もしくはグループの方々も一緒に写真に写ってください。
➡STEP3 立命館 CLUB ホームページから申し込み
エントリー専用のページがあります。必要事項をご記入のうえ、撮影した画像を添付してお申し込みください。

立命館 CLUB 検索 WEB www.ritsume.ac.jp/rclub/

本企画に関するお問い合わせは 立命館 CLUB 事務局 TEL: 075-813-8118 (受付時間: 平日 9:00~17:30)



(イメージ図)



Takanobu NISHIURA

PROFILE

2001年 奈良先端科学技術大学院大学
情報科学研究科博士後期課程 修了

2001年和歌山大学システム工学部助手、2004年立命館大学情報理工学部助教授、2007年4月より立命館大学情報理工学部准教授（現職）。博士（工学）。

2009年第11回日本バーチャルリアリティ学会論文賞、2001年第16回電気通信普及財団賞ほか受賞。

●研究テーマ 音環境の解析・理解・再現・合成に関する総合研究

音で暮らしを豊かに

情報理工学部

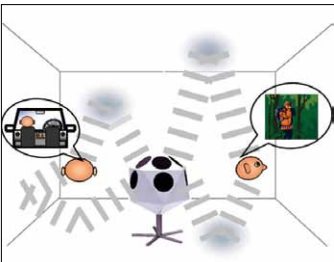
西浦敬信 准教授

音のない空間は日常生活には存在しない。暮らしの中に必ずあるものだからこそ、できることなら音と上手に付き合って快適に過ごしたい。そんな思いで「社会に役立つ音響技術」の研究を進めているのが、情報理工学部の西浦敬信准教授だ。音にまつわる幅広い研究で、音と私たちの新しい暮らしのあり方を提案している。

「ここにしかない」ユニークな音研究の数々

数ある興味深い研究の中でも、西浦准教授が現在最も力を入れているのが超音波スピーカーの研究だ。超音波スピーカーは、音を超音波に乗せて運ぶため、普通のスピーカーと違って音がまっすぐ進む。また、その反射波もまっすぐ進むため、特定の領域にだけ音を伝えることができる。この技術によって、壁から紙まで、あらゆる反射物をスピーカーにすることに成功した。「プラネタリウムのように、壁や天井などあらゆる場所に音を映すことができるため、『音像プラネタリウム』と呼んでいます」。研究のきっかけは、4年ほど前から加速した映像の立体化。テレビや映画では3Dが急速に普及したが、音は従来のままだった。科学研究費助成事業基盤研究(S)（代表：田村秀行立命館大学教授）の枠組みにおいて、先行する映像技術を補う音を目指した結果、この音像プラネタリウム技術によって映像から音が飛び出してくるような立体的で臨場感のある音を実現することができた。

音を作る研究の一方で、不快な音に少し音を加えることによって心地良い音にする「快音化」の研究にも取り組む。現在の主な騒音解消法は、壁を分厚くして騒音を遮る、あるいはノイズキャンセルのように逆振幅の波で騒音を打ち消すというもの。しかし、前者は莫大なコストがかかり、後者は室内全体では騒音が消えないという問題点があった。そこで西浦准教授に浮かんだのが「騒音が心地良い音になれば、人は我慢できるのではないか」という発想だった。まず不快な騒音が気にならないように聴覚的にマスキングする音を設計して、その上で音を足して心地良い音にする。音を足すことで騒音が心地良い音になるのなら、今まで不要だったはずの騒音も必要なものになる。「要らないと思われていた騒音を活用しようというのがコンセプト。音のエコロジーですね」。開発された快音化装置は、マイクロホンで自動的に周囲の音を検出し、



騒音に応じて最適な音を作り出す。360度均一に音が伝わるので、小さな装置を一つ置いておけば室内全体に快適な音環境ができるという。「人間の心地良さは千差万別。開発には苦労しましたが、そこがこの研究の面白さでもありました」。装置開発は企業と共同で進め、東日本大震災後、騒音被害が深刻化する仮設住宅などでの活用も視野に入れ、実用化に向けて動いている。

西浦准教授はまた、祇園祭のお囃子や山鉦巡行の走行音といった、音の無形文化財のデジタルアーカイブ化にも挑戦している。通常の録音機材では正確に録音できないお囃子を、音の分離技術を使って、狙った音だけを抽出して録音。また、文部科学省複合現実型デジタル・ミュージアムプロジェクト（代表：廣瀬通孝東京大学教授、課題代表：田中弘美立命館大学教授）の枠組みにおいて、山鉦の内・外、あるいは車輪からの走行音など、人が入り込めない場所の音を録音してデジタルアーカイブした。その情報を基に、祇園祭と同じ音環境を別の場所で構築する技術だ。「この研究をさらに進めると、バイオリンは東京で、ピアノは大阪でと、遠隔地の演奏を臨場感あふれるオーケストラの演奏に再現することもできるのです」。

研究テーマは多岐に及び、その応用例の幅広さは計り知れない。振動があれば必ず音が発生する。家電をつくれば、電機メーカーは必ず騒音の心配をしなくてはいけない。商業ベースから考えても、音にはたくさんの可能性があるのだ。

心地よいと感じる音づくりを

音を究める研究者、西浦准教授の研究の出発点は「音＝音楽」への興味というものとは少し違う。「私が専門とする情報分野では、画像や映像の研究はとても活発。それなのに画像や映像につきものの音の研究はとても少ない。『社会的ニーズがあるのに音の技術は不足している。ならば自分が役に立てれば』という思いから音の研究を始めました。音の研究者という音楽に興味があると思われがちですが、私は、音楽はまったく聴きません（笑）。研究というのは、みんなが同じ切り口だと社会は変わらない。だからそれぞれがいろんな切り口で良い技術を育て、残していくことが大切です」。現在は、報知音や警告音についての研究も始め、心理学や医学の専門家と連携した音作りを目指す。また、音像プラネタリウム研究を進化させ、音像を壁面上ではなく空間上に作り出す技術の開発に向けても実験を重ねているという。

「文明は進み、社会はどんどん良くなっている。けれど騒音だけを見ると、そうとは言えません。明治や大正の頃と比べて、今、街の騒音は何倍にも膨れ上がっています。文明の発展が騒音の増加だとなんの意味もないのです。私は、人々の暮らしを音という側面から支援して豊かにしていきたい。生きる上で必ずついてくる音だからこそ、人が心地良さを感じるものにしていきたいですね」。



あらゆる騒音環境を快音に変える「快音化スピーカー」

即戦力として

社会需要大きい卒業生たち

西浦准教授の「音情報処理研究室」は、学生の教育にも熱心。学生たちには、学会や国際会議で積極的に発表させている。「研究室は基礎を学ぶ場所であって、あとは学会で実践するのみ。学生には、実力を発揮する機会をできるだけたくさん与えるようにしています。何事も少し高めにハードルを設定すれば、モチベーションも向上し、自然とベストを尽くすようになる」。企業との共同研究も多く、学生たちにとっては早くから社会を意識する場にもなっている。「音響をツールにして、社会人力も身につくように。学生には、研究成果を出すよりもまず、たくさんの刺激を受けて成長してもらえれば」。卒業生たちは即戦力として社会での需要も大きく、電機、自動車、通信等々、幅広い分野で活躍している。



SPORTS

スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

陸上部

第90回関西学生陸上競技対校選手権大会で女子が総合優勝、男子が総合3位を獲得

(5月9～12日 大阪市・長居第1陸上競技場)



第90回関西学生陸上競技対校選手権大会において、女子陸上競技部が3年ぶりの総合優勝、男子陸上競技部が総合3位を獲得しました。女子10000mWで優勝した前田さんは2位の選手を2分以上引き離して優勝。また、男子円盤投では、2回生の堀江省太さんが優勝するなど、男子、女子ともに健闘が光りました。

主な成績

- ◆女子10000mW
優勝 前田浩唯さん(経済4)
- ◆女子400mH
優勝 王子田萌さん(スポ健2)
- ◆女子5000m
優勝 飯下明音さん(経営4)
- ◆女子10000m
優勝 津田真衣さん(経営3)



- ◆男子円盤投
優勝 堀江省太さん(スポ健2)
- ◆男子10000m
優勝 濱野 秀さん(理工2)

男子卓球部

春季関西学生卓球リーグ戦、9季ぶり21度目の優勝

(5月11、12日 東大阪市・近畿大学記念体育館)

平成25年度春季関西学生卓球リーグ戦が開催され、卓球部男子が、最終日に近畿大学に5-2で勝利し、7戦全勝で9季ぶり21度目の優勝を果たしました。トップで松井良樹さん(政策2)が、大学入学以来リーグ戦負けなしの近畿大学の選手に勝利し、チーム全体に勢いをつけると、最後は主将の林一茂さん(産社4)が勝利し、近畿大学との激戦を制しました。この後、卓球部男子は、6月27日(木)から愛知県・豊田市で開催される全日本大学総合卓球選手権大会(インカレ)で全国上位を目指します。



相撲部

山中未久さんが第14回全国女子選抜相撲大会で優勝

(5月12日 堺市・大浜公園相撲場)

第14回全国女子選抜相撲大会において、



写真中央が山中さん

中量級で山中未久さん(スポ健2)が優勝、重量級で稲葉映美さん(スポ健1)が準優勝を果たしました。山中さんは、全国から10選手が出場した中量級で世界大会3位の實力通り、危なげなく優勝を果たしました。大学に入学して2試合目となった稲葉さんは、見事準優勝を勝ち取りました。これからの活躍が期待されます。

CULTURE/ART

文化・芸術

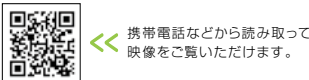
問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

能楽部

30周年記念 立命新能を開催

(4月22日 衣笠キャンパス)

能楽部は、衣笠キャンパスにおいて30周年記念「立命新能」を開催しました。学生能楽サークルは、全国でも数が少なく、能楽堂を借りて公演を行なっている大学が多い中、立命館大学ではキャンパス内で新能を行なってきました。他の学生に日本の伝統芸能である能の素晴らしさを伝えるとともに、地域の方々に、学生が演じる能を楽しんでもらえるという意義があります。当日は、特設した能舞台の周囲に焚いた幻想的ななかり火の中、練習を重ねてきた部員たちが「敦盛」や「賀茂」などの演目を美しく舞い、観客を魅了しました。



携帯電話などから読み取って映像をご覧いただけます。

CAMPUS ACTIVITIES

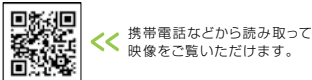
学生活動

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

2013年度「新歓祭典～Join us～」を開催

(4月27日 びわこ・くさつキャンパス)

びわこ・くさつキャンパスにて、「2013年度新歓祭典～Join us～」を開催しました。新歓祭典は、新入生約8,000人をはじめとした学生が主体となって企画・運営をする新入生に向けた歓迎イベントです。新歓祭典には、新入生がクラス単位で参加するのみならず、サークル団体などに所属する在学生も多数参加します。当日は、心配されていた天気にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。セントラルステージにおいては、課外自主活動団体が、パフォーマンスやライブ演奏を披露。新入生が基礎演習のクラスごとに出店する模擬店では、それぞれ工夫を凝らした品を販売し、人気店では行列ができるほどの盛り上がりを見せました。



携帯電話などから読み取って映像をご覧いただけます。

第45回草津宿場まつりに立命館大学の学生が多数参加

(4月28日 JR草津駅、草津市役所周辺)

このイベントは、毎年草津市の方々によって開催されるもので、東海道と中山道が出会う旧草津宿の歴史や伝統を身近に感じ、楽しむことができる草津市の春の風物詩としても知られています。昨年に



引き続き多くの観光客で各会場は賑わいました。街道では、多彩なパフォーマンスが行なわれ、立命館大学からも9の課外活動団体、運営スタッフなど約165人の学生が参加しました。

約20名の留学生がお神輿の担ぎ手として滋賀県野洲市「兵主(ひょうす)祭」に参加

(5月5日 野洲市 兵主大社)



滋賀県野洲市の兵主大社で開催された「兵主祭り」において、約20名の立命館大学の留学生が神輿の担い手として参加しました。兵主祭りは、毎年5月5日に行なわれる例祭で、神輿や太鼓が参道を練り歩いて次々と神社に宮入する神事です。例年、お祭りが非常に活気を見せる一方で、年々神輿を担ぐ若者が少なくなっているという実態があり、2010年度から留学生が参加しています。現在では、日本の伝統的な文化を体験的に学び、地元住民と交流する場となるため、毎年多くの留学生が参加し、一担ぎ手として祭りの盛り上げの中心的な役割を担っています。今年は、ベトナムやインドネシア、カンボジア、メキシコ、トンガなどからの留学生約20名が参加し、地元住民と一緒に神輿を担ぎました。

茶室で英語基準留学生を対象とした茶道体験を開催

(5月16日 びわこくさつキャンパスエボック立命21 蓬窓庵(茶室))

びわこ・くさつキャンパスにて、インドネシア・エチオピア・キルギスタン出身の英語基準留学生と茶道研究部部員による茶道体験を開催しました。今回の企画は、留学生が日本文化の理解を深める一環として生命科学研究科の呼びかけのもとで行なわれ、同研

究科の他、理工学研究科と経済学研究科の英語基準留学生と同日来学中であったイリノイ大学の教職員も参加し、総勢20名近くのにぎやかなお茶会となりました。はじめに茶菓子として草津銘菓の「うばがもち」が振舞われ、茶道研究部部員から茶道の心得や作法について説明があった後、実際にお点前の体験が行なわれました。参加者たちは慣れない作法に苦戦しながらも初めて触れる日本文化を楽しんでいました。



学生の活躍、なつかしい立命館の映像をYou tube立命館公式チャンネルでご覧いただけます！

動画共有サイトYou tubeに開設している立命館公式チャンネル「Ritsumeikan Channel」では、学生の活躍、最新の教育・研究など立命館大学の今を映像でご覧いただけます。また、約60年前に撮影・編集された「立命館学園創立50周年記念映画 わが学園の記録」など、立命館学園のなつかしい映像もアップしておりますので、ぜひご覧ください。

★「Ritsumeikan Channel」はこちら
<http://www.youtube.com/user/ritsumeikanu>



2013年「新歓祭典～Join us～」の映像



「立命館学園創立50周年記念映画 わが学園の記録」の映像

東日本大震災 私たちにできること

大船渡市×立命館 協定締結1周年記念フォーラム

岩手県大船渡市・立命館大学「災害復興にむけた連携協力に関する協定」締結1周年記念フォーラム「復興のたまご～大船渡と立命館が育てた1年～」を開催

5月16日(木)、衣笠キャンパスにおいて、岩手県大船渡市・立命館大学「災害復興にむけた連携協力に関する協定」締結1周年記念フォーラム「復興のたまご ～大船渡と立命館が育てた1年～」を開催しました。大船渡市と立命館大学は、2012年4月に「災害復興にむけた連携協力に関する協定」を締結し、連携協力して多彩な支援活動に取り組んできました。今回は、協定締結1周年を迎え、戸田公明・大船渡市長をお招きし、改めて大船渡市の現状や課題について共有することを目的にフォーラムを開催しました。フォーラムでは、川口清史・立命館総長から、大学が復興支援において果たす役割が述べられ、戸田市長からは、大船渡市の復興の状況と課題についての報告が行なわれました。さらには、大船渡市の復興計画推進委員会委員長を務める塩崎賢明・政策科学部特別招聘教授からは、今後の震災を踏まえた今後への備えについての報告、大船渡での支援活動に引率した教職員、学生代表からの活動報告も行なわれました。



ー模型の街に記憶を吹き込むー「記憶の街 ワークショップ in田老」を開催



4月9日(火)～14日(日)に、岩手県宮古市の田老地区において、震災前の街並みの記憶を辿る企画「記憶の街 ワークショップ in田老」が開催され、理工学部の宗本研究室や理工学部建築都市デザイン学科の学生らが、震災前の田老の街を1/500の大きさで復元した白い模型を展示しました。会場では、住民の方々が学生たちと模型を見ながら街の思い出を語り合ったり、模型に色づけをして街の記憶を残していく取り組みが行なわれました。参加者の皆さんの協力により、真白な模型に色づけがされ、それぞれの思い出を反映する作業が行なわれました。



携帯電話などから直接読みとって映像をご覧いただけます。

岩手県大船渡市「碁石海岸観光まつり」のステージイベントに立命館大学の課外活動団体が参加

5月4日(土)と5日(日)の二日間、岩手県大船渡市で開催された「碁石海岸観光まつり」のステージイベントにおいて、立命館大学からダブルダッチサークルFusion of GambitとストリートダンスサークルRDCが2日間4回のステージパフォーマンスを行ない、地元の方たちに元気を届けました。また、ダブルダッチとダンスの体験コーナーを設け、地元の方たちと交流を行ないました。



日本の大学で初めて海外の大学と学部を共同設置する「大連理工大学(中国)・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」の開設が決定

立命館大学と大連理工大学(中国)が共同で開設準備を進めてきた「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部(以下、新学部)」が、3月27日(水)に中国政府教育部より正式に認可されました。このことを受け、両大学は、2013年9月に大連理工大学キャンパス内に新学部を開設することを正式に決定しました。日本の大学が海外の大学と学部を共同設置することは初めての取り組みとなります。新学部は、中国の教育制度の下、中国人学生を中心に、日本を含めた諸外国の学生も受け入れの対象とし、理論と実践のバランスがとれた国際的に活躍できるグローバルIT人材を育成することを目標とします。



記者会見の様子

日中韓キャンパスアジア・プログラムが日本で開講～国境を越え活躍する東アジアの次世代リーダーを養成～

立命館大学文学部・広東外語外貿大学(中国)・東西大学校(韓国)から選抜された28名のパイロット学生が3カ国を移動しながら学ぶキャンパスアジア・プログラム「移動キャンパス」の2学期(日本)が、5月7日(火)より立命館大学にてスタートしました。本プログラムでは、選ばれた学生たちが1年間に10週間ずつ3カ国を移動する「移動キャンパス」を2年間(2周)実施します。そして、滞在する国の母国語で授業を受けることに加え、国際寮で共同生活を営み、助け合い、学び合い、互いの国の文化や習慣などを理解することを目的としています。



携帯電話などから直接読みとって映像をご覧いただけます。

アラブ首長国連邦(UAE)における日本語教育の充実に関する覚書締結

5月1日(水)、アブダビ教育評議会、コスモ石油株式会社とその子会社であるアブダビ石油株式会社、および学校法人立命館は、①アブダビ首長国・王立科学技術系高校(ATHS)において2011年9月より実施している「日本語教育プログラム」の充実、②留学生の受け入れなど様々なレベルでの交流拡大、③アブダビ首長国からの学生・生徒を受け入れる条件について協議を進める覚書を締結しました。また、5月2日(木)、アブダビ首長国において、安倍晋三・内閣総理大臣のUAE訪問にあわせ日本とUAEの経済関係の強化及びビジネス拡大に向けた日本・United Arab Emirates(UAE)ビジネスフォーラムが開催され、川口清史・立命館総長が両国間の教育・人材開発について代表スピーチを行ないました。



「キャリア形成支援を通じたグローバル人材育成養成プログラム」開講式を開催

5月25日(土)、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて「キャリア形成支援を通じたグローバル人材養成プログラム」開講式を開催しました。本プログラムは、産学連携により、海外展開する日本企業において活躍できる人材の育成を目的としています。学部3年生、大学院修士1年生を対象に、選抜された49名(学部生40名、大学院生9名)の外国人留学生と日本人学生が7カ月間にわたり毎週、共同でグループワークなどを行ないます。参加学生は授業で日本の企業経営に息づくホスピタリティや日本独特の企業文化を学ぶとともに、企業のインターンシッププログラムに参加、さらには日本企業が海外展開する際に抱える現実的な課題に対してグループで解決策を練り、企業の担当者 앞에서発表を行ないます。



講演会で語る数中三十二・国際関係学部特別招聘教授

武田鉄矢さんに立命館大学 白川静記念東洋文字文化研究所が「名誉漢字教育士」の称号を授与



この度、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所は、「漢字」への造詣が深く、ときにはメディアを通じて「漢字の成り立ち」を解説されている俳優の武田鉄矢さんに、「名誉漢字教育士」の称号を授与しました。この度の授与は、子どもたちの国語力を育み、地域社会、日本社会を元気にしたいという、武田さんのかねてよりの提言と活動が、「漢字教育士」の本義に通じるとして決定しました。授与式は、4月4日(木)に大学・研究所関係者立会いのもと、東京都内にて執り行なわれました。

産学農で共同開発した「超特撰白雪 純米大吟醸 必勝の酒 勝馬米」を4月10日(水)に発売

立命館大学、農事組合法人栗東有機農業生産組合、競走馬育成事業協同組合と小西酒造株式会社は、「超特撰白雪 純米大吟醸 必勝の酒 勝馬米(以下、清酒勝馬米)」を共同で開発し、4月10日(水)に、1000本限定で発売しました。清酒勝馬米は、日本中央競馬会(JRA)栗東トレーニ



ング・センター(滋賀県栗東市)の競走馬の馬糞から作られた堆肥(馬有機堆肥)を肥料に栽培したお米(勝馬米:滋賀県産)を、小西酒造が清酒として加工・製品化したものです。発表会では、これまで経験的に良質とされていた馬有機堆肥について、久保幹・生命科学部教授が微生物に基づく土壌肥沃度診断(SOFIX)の技法を応用し、科学的に良質で安全、安心であることを証明しました。

谷口忠大・情報理工学部准教授の著書「ビブリオバトル～本を知り人を知る書評ゲーム～」の出版記念イベントをびわこ・くさつキャンパス(BKC)にて開催

4月19日(金)、びわこ・くさつキャンパス(BKC)において、情報理工学部の谷口忠大・准教授の著書「ビブリオバトル～本を知り人を知る書評ゲーム～」の出版記念イベントを開催しました。ビブリオバトルは、谷口准教授が考案した、お気に入りの本を持ち寄って、その面白さについて5分でプレゼンテーションし合い、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決める書評合戦です。イベントでは、谷口准教授とビブリオバトル普及委員を務める言語教育企画課外国語囑託講師の木村修平先生とのトークショーや、記念ビブリオバトル、サイン会が開催され、約30名の観客が集まりました。



今秋、「立命館西園寺塾」設立 ～多彩な講師陣を揃え、歴史観・倫理観・思考力(教養)を培う

立命館は、東京キャンパスで、学祖西園寺公望の名を冠した21世紀のグローバルリーダー育成講座「立命館西園寺塾」を開設します。

理 念		受講対象者	
●天命を立命するための場、天から与えられた本分を全うする生き方の探究		① 日本の歴史や伝統文化、日本人の自然観や世界観に立脚して、新たな文明の時代を切り開く知性を磨く意欲のある方	
●世界をリードする企業・社会を創造するリーダーの育成		② 現代社会の閉塞感を打破する意欲を有し、利他の心に立脚して幸福な世界を築くために尽力する熱意のある方	
●利他の心に裏打ちされたさまざまな人々の共同・連携による相乗効果創出の場		③ 企業・組織や社会のリーダーを目指す方	
運営体制		「立命館西園寺塾」開設記念特別講演会	
塾長	安田喜憲 (立命館大学 環太平洋文明研究センター センター長、国際日本文化研究センター 名誉教授)	日 時	2013年7月28日(日) 13:30～15:00
副塾長	渡辺公三 (学校法人立命館 副総長)	講演者	梅原 猛(国際日本文化研究センター顧問)
		演 題	「人類哲学序説」
		会 場	立命館朱雀キャンパス5階大会議室／立命館東京キャンパス(サテライト中継)
		お申込方法	ホームページをご覧ください

講座内容・スケジュール・応募方法がわかるHPIは、<http://www.ritsumei.ac.jp/saionji-juku/>

「2012年度事業報告書」および「2013年度事業計画書」のご案内

このたび、学校法人立命館の「2012年度事業報告書」および「2013年度事業計画書」を発行いたしました。大学ホームページでも閲覧可能です(http://www.ritsumei.jp/profile/a08_j.html)。なお、冊子をご希望の場合は、下記の事務局宛にご希望の冊子名、冊数とお名前、送付先、電話番号をご記入の上、FAXにてお申込みください。

学校法人立命館 事業計画課

〒604-8520
京都市中京区西ノ京朱雀町1番地
TEL:075-813-8244
FAX:075-813-8252



OPEN CAMPUS 2013

8/3(土) 8/4(日) 10:00-16:00

衣笠キャンパス / びわこ・くさつキャンパス

特設サイト
7月
開設予定!

立命館大学の両キャンパスで開催。
研究室を訪問したり、模擬講義を受けられる体験型企画を豊富に実施します。学びの内容や学生生活、課外活動や就職支援など、大学生活を肌で感じることができます。高校3年生・受験生はもちろん、高校1・2年生や保護者の方もご一緒に参加いただけます。

大学紹介

入試説明会

模擬講義

研究室公開

キャンパスツアー

個別相談

オープンキャンパス2013
無料送迎バス運行
※詳しくは「リッツネット」で
ご確認ください。

理工学部BKC移転20周年記念事業募金へのご協力をお願い

新たな教育研究の地平を拓く — 理工学部の挑戦 —

理工学部は2014年にBKC移転20周年を迎えます。
この節目に理工学部では、今後さらなる発展を遂げ、世界にはばたく卒業生を送り出すために学科・学系毎の各種取り組みを行ないます(詳細はHPをご参照ください)。

この度、その取り組みのための募金活動を行なうことになりました。卒業生の皆さまにおかれましては、ぜひ募金にご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

寄付募集目標額	2億円
募集期間	第1期 2013年4月1日～2013年10月31日 第2期 2013年11月1日～2014年3月31日
申込金額	法人 1口10万円 ※1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。 個人 1口1万円 ※1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。
申込方法	以下のページにアクセスいただき、ご確認ください。 http://www.ritsumei.ac.jp/se2012/bkc20/contribution.html/

お問い合わせ先	立命館大学理工学部事務室庶務係 077-561-5747 詳細はホームページでご確認ください。 http://www.ritsumei.ac.jp/se2012/bkc20/index.html/
---------	---

+R なる人

学部での学びを実践し、世界の頂を目指す！

板底雄馬 さん(スポーツ健康科学部3回生)
Windward主将

2007年に設立した若い団体ながら、全日本学生ボードセーリング選手権(インカレ)の個人戦で3度、団体戦で1度優勝するなど、近年好成績を上げているウインドサーフィンサークルWindward。同団体を主将として率いるのは、自身も2012年度のインカレ個人戦を制し、ナショナルチームにも選抜されている板底雄馬さん。



ウインドサーフィンを始めたのは小学3年生。中学2年生で初出場した全日本アマチュア選手権・ジュニアクラスで優勝し、翌年も連覇。その後も好成績を上げ続け、高校在学中にプロへと転向。転機となったのは、高校を休学して向かった「ウインドサーフィンの聖地」ハワイへの留学だった。ハワイでは、専門のトレーナーの指導を受け、理論的かつ合理的に練習に取り組み、生活の全てを競技に集中させるトッププロの姿に大きな刺激を受けた。「世界で勝つために自分に足りないものが見えてきました」と、その時感じた思いが、板底さんを立命館大学進学へと導いた。トッププロのようにトレーナーを雇うことは費用の面から考えても難しい。そこで、練習環境の整った強豪校ではなく、スポーツ健康科学部のある立命館大学への進学を決めた。「合理的なトレーニング理論や栄養学などを自分で理解すれば、トレーナーがいなくても自分で実践できます。そういう勉強ができる大学を探して、スポーツ健康科学部への進学を決めました」と当時の心境を語ってくれた。

大学入学後、競技力向上に効果が高いトレーニング法や栄養学など、大学での学びを積極的に普段の生活やトレーニングに採り入れていった。30分間もの長時間に及ぶ試合のなかで、筋肉が疲れにくく、パワーを出せる栄養摂取方法や、短期間で有酸素能力と無酸素能力を強化する効果

を得ることができる。田畑泉・スポーツ健康科学部教授が科学的にメカニズムを証明したトレーニング法「Tabata Protocol※」を実践。以前であれば、試合中にセイルを漕ぐだけで精一杯だったが、今ではセイルを漕ぎながら、対戦相手を確認する余裕が生まれ、体力面で確かな手ごたえを感じるようになった。

高校までは個人で活動してきたが、大学ではWindwardに所属し、現在は主将を務めている。「自分の知識や経験をどう伝えれば、どういったトレーニングをすれば後輩たちが上達するのか、常にチーム全体のことを考えながら行動することで、人間的に成長することができました。今後は、これまで培ってきたノウハウをチームにも還元し、チーム全体のフィジカルを向上させていきたいです」と、Windwardというチームに所属したからこそできた成長、そしてこれからの目標を語ってくれた。

校友の皆さんへのメッセージとして「一度ウインドサーフィンを体験してもらって、ウインドサーフィンの魅力を知っていただきたいと思っています。これからも立命館の看板を背負って勝ち続けられるように頑張っていきます」と語ってくれた。

板底さんはオリンピックの強化指定選手にも選ばれており、2016年、2020年のオリンピック出場を目指している。「学生の枠を超えて、オリンピックや世界選手権でも勝てる選手になりたい」。世界の頂を目指している。



※高強度(続けて行えば50秒程度で疲労困憊に至るような強度)の運動20秒―休息10秒を1セットとして合計8セット(約4分間)行なう、インターバルトレーニングの一種。短期間で極めて高い運動効果を得ることができる。

校友消息 (判明分)

叙勲2013年春

■旭日中綬章

上田勝弘氏('61法)
元日本金型工業会会長

■旭日小綬章

中川幸雄氏('65法)
元滋賀県収用委員会会長

■瑞宝小綬章

吉村憲次氏('63理工)
元京都市公営企業管理者上下水道局長

宮村統雄氏('67法)

元滋賀県健康福祉部長

■旭日双光章

坂根 勝氏('62理工)
元島根県浄化槽協会会長

■瑞宝双光章

北山正雄氏('58経済)
元京都工芸学部事務部長

速水 彰氏('65法)

元岐阜県方法務局長

危険業務従事者 叙勲2013年春

■瑞宝双光章

武野正孝氏('65文)
警察功労

山田 守氏('66文)

警察功労

横山清信氏('66法)

警察功労

野々口昌秀氏('68法)

警察功労

井上喜久雄氏('69理工)

消防功労

■瑞宝単光章

北原 勝氏('64経済)
警察功労

立原正治氏('66法)

警察功労

高畑忠勝氏('67法)

警察功労

褒章2013年春

■黄綬褒章

佐藤良治氏('63経済)
国華荘会長

大工園 隆氏('68法)

大工園商事代表取締役

■藍綬褒章

藤園堅正氏('44文)
教諭師

佐竹力総氏('70法)

元日本フードサービス協会会長

就任 (内定含む)

神谷和秀氏('79経営)
イオンファイナンシャルサービス
(株)
代表取締役社長
4月1日就任

堀 忠雄氏('68法)

京都府和東町長
4月22日(4期目就任)再任

今川雅博氏('75経営)

日本液炭(株)代表取締役社長
6月20日就任予定

堀 司郎氏('70経営)
(株)マキタ代表取締役社長
6月25日就任予定

杉本英雄氏('85産社)

ジー・テイスト代表取締役社長
8月1日就任予定

訃報

戸木田嘉久氏

本学名誉教授、元副学長
2月26日ご逝去。88歳

安藤次男氏(教職員校友)

本学名誉教授、元国際関係学部長
3月5日ご逝去。69歳

岩清水幸夫氏(教職員校友)

理工学部名誉教授
4月9日ご逝去。69歳

BOOKS

校友会へご惠贈くださいました本の中から紹介させていただきます。

◆鈴木啓三氏(立命館大学名誉教授)著

『歌集 曼珠沙華』

青磁社*2500円+税

『わが青春の譜』

自家出版

◆小池真己恵氏('92文)著

『フィリピン人介護福祉士候補生の日本語奮闘記』

ブックコム*800円+税

◆中村義孝氏('62法)著

『概説 フランスの裁判制度』

阿吽社*2500円+税

校友会報「リつめい」252号記事に関する
お詫びと訂正

校友会報リつめい252号(2013年4月号)、16
ページ「校友NEWS」内、記事「初のブロック開催!
『九州女子会』が開かれました」の表記に誤り
がありました。
ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。
(誤)福岡県博多市 → (正)福岡市中央区天神

古本を活用した新たな支援のかたちが始まりました

BOOKS FOR BOOKS

～立命館の本活～

<http://www.books-for-books.jp/>



あなたの読み終えた本が、
学生・生徒・児童のための
新しい本に
生まれ変わります。

あなたの本を
活かします

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～とは?

卒業生や保護者、教職員や在学生・在校生の方々から、読み終えた書籍(CD・DVD等を含む)
をお送りいただき、それらを社会へ還元させるとともに、本学の図書充実に役立てる活動です。

どのような仕組みですか?

集荷や査定を提携企業(株式会社
バリューブックス)に委託し、その
査定額(全額)が本学への寄付金
となります。

手続きの方法は?

- ①書籍を段ボール箱に入れる
 - ②電話かWEBで集荷を依頼する
- 簡単な手続きで終了します。 ※5冊以上であれば送料は無料です

詳しくは [WEB](http://www.books-for-books.jp/) をご覧ください。

お問合せ先

総務部 寄付事務局
TEL 075-813-8110 (平日9:00～17:30)
E-mail rgiving@st.ritsumei.ac.jp

●「BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～」の仕組み

古本を送付

古本の集荷・
仕分け・買い取り

教育・研究支援
のための費用へ



株式会社
バリューブックス
VALUE BOOKS
※提携企業

立命館

立命館CLUB

立命館の「いま」が て届く!!

立命館大学のメールマガジン。私たちの活動をぜひ知ってください。
ご入会お待ちしております!! 詳しくは、Webへ

立命館CLUB

検索

[WEB www.ritsumei.ac.jp/rclub/](http://www.ritsumei.ac.jp/rclub/)



「りつめい」の編集方針を決定する広報委員会は、委員の予定を調整して開催されるが、なかなか全員は揃わない。委員は全員がボランティアで、それぞれの仕事を終えた後、朱雀キャンパス19時開始の会議に駆け付ける。会議では、校友会事務局職員と編集委員が智恵を絞り、毎回長時間におよぶ真剣な議論を展開する。その意識は、32万の校友に立命館学園と校友の最新の動向を伝えることにある。

今号の特集では「未来人材育成基金」の連載3回目として、同基金の支援者へのインタビューから活動の広がりを紹介。また「りつめいインタビュー」では、液晶関連の技術開発ベンチャーで活躍する校友を、震災関連記事では、福島県校友会副会長のネットショップ『福島屋商店』の取り組みをと、盛りだくさんに紹介する。(中村和蔵)

今年、大学生の就職率は前年同期から少し増え、93.9%だった(4月1日現在)。厚労省などでは、採用を絞っていた企業が求人回復、大学とハローワークの連携した支援なども効果があったからと分析しているという。そんななか、一大ビジネスとなっているのが、就活や面接に関するもの。ネットで調べたら塾やコンサル、ナビなどのほか、トレーナーなるアプリもヒットする。技を磨き、単に大手の企業へ就職することがゴールになってやしないか。近頃、人事の方から面接は上手いんだけどね、なんてボヤキもよく聞き、複雑な思いになる。

自分は何を求め、何がやりたいのか。時間をゆつくりとかけてその気づきを引き出す。そんな学生支援がわれわれ校友にもできないか。親心にも似た気持ちが生まれている。(山岡祐子)

朱雀キャンパスの東北1km程の地点には、秀吉が築城し、僅か8年で破却された聚楽第が存在した。昨年、公有地において京都府埋蔵物研究センターによる画期的な発掘調査が行なわれ、結果、本丸南側には驚愕の石垣遺構が出現した。現地説明会には3千人余が参集。秘めたる関心の深さが伺い知れる。天下人の威光を感じ、とりわけ発掘現場東側に存在したと伝承される大手門(日暮門)に、悠久のロマンの中にイメージが膨らむ。

調査を担当した機関には多数の校友が勤め、秀吉とりわけ聚楽第研究には本学の諸先生方も学際的に関わられていると聞く。研究者、地元有識者、市民団体は公開保存を要望し、国の史跡指定を目指している。小生、西陣生まれ西陣育ちの市井の郷土史研究者として思いは深まるばかりである。(仲 治實)

日光を浴びた樹木が美しく競演する緑溢れる季節、魅力的な芸術の世界を鑑賞する機会を得ました。衣笠キャンパス正門前にある堂本印象美術館は、本館の工事を無事終え、4月12日にリニューアルオープンしました。リニューアルを記念した企画のテーマは「京都画壇の巨星たちPart I」。竹内栖鳳や小野竹喬など京都画壇を代表する6名の文化勲章受章者の作品が展示され、其々に展開される独自の作風は、私のように絵画に疎いものにもその素晴らしさを伝えてくれました。同展では期間中、特別に呈茶席が設けられた日があり、その日振舞われたお茶は立命館大学茶道サークルの学生のお点前によるものと。素晴らしい日本画と和文化を学ぶ後輩たちによる美味しい抹茶。まさに初夏の京都を彩る展覧会となりました。

(森 力)

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

2013年度春季特別展

ジミー・ットム・ミリキタニ回顧展

—日系人強制収容所と9.11を体験した反骨のホームレス画家—

ジミー・ットム・ミリキタニ(1920-2012)は第二次世界大戦中の日系人強制収容体験を持ち、晩年はニューヨークでホームレス画家として平和を訴えました。本展では、ユーモアあふれる猫や、収容所を描いた作品30点と日系人強制収容の歴史を紹介。



Mother and Baby
画像提供：ジミー・ットム・ミリキタニ&リンド・ハッテンドーフ

特別企画展示

丸木スマ展

—いのちをみつめて—

丸木スマ(1875-1956)は、戦後、70歳を過ぎて長男の丸木位里・俊夫妻の勧めで絵を描き始め、多くの作品を残しました。本展では、花や生きものの等色鮮やかに描いた作品や、自身の被爆体験を描いた作品など12点を紹介します。



夏木立(1952年) 原爆の図 丸木美術館蔵

第81回ミニ企画展示 「平和をつむいで20年」

平和友の会結成20年を記念して、これまでの活動記録を展示し、その歩みを振り返ります。

特別展

世界報道写真展2013-WORLD PRESS PHOTO 2013-

世界報道写真財団が毎年開催するコンテストの入賞作品で構成した写真展。いま一度、平和とは何かを考えるきっかけとして、どうぞご覧ください。

会期

春季特別展

ジミー・ットム・ミリキタニ回顧展
—日系人強制収容所と9.11を体験した反骨のホームレス画家—
開催中～7月20日(土)

特別企画展示『丸木スマ展—いのちをみつめて—』も同時開催中

特別展

世界報道写真展2013-WORLD PRESS PHOTO 2013-
9月18日(水)～10月13日(日)
※10月15日(火)～31日(木)BKC、11月3日(日・祝)～17日(日)APUで開催

第81回

ミニ企画展示

「平和をつむいで20年」
9月14日(土)～10月6日(日)

常設展示(地階・2階)は、上記展示期間以外でも見学することができます。

開館時間

午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日

月曜日、7/16(火)、9/17(火)、24(火) ※7/15(月)、9/16(月)、9/23(月)は開館
9/1(日)～9/9(月)

観覧料

一般400円(350円) / 中・高生300円(250円) / 小学生200円(150円)

()は20名以上の団体料金/障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

※特別展「世界報道写真展2013」期間中は、大人の一般観覧料が500円になります(団体料金適用はありません)。

立命館大学国際平和ミュージアム
特別展・常設展
校友招待券
有効期間
2013年9月15日(水)まで
[校友会連・館蔵券]
校友会連 No.253